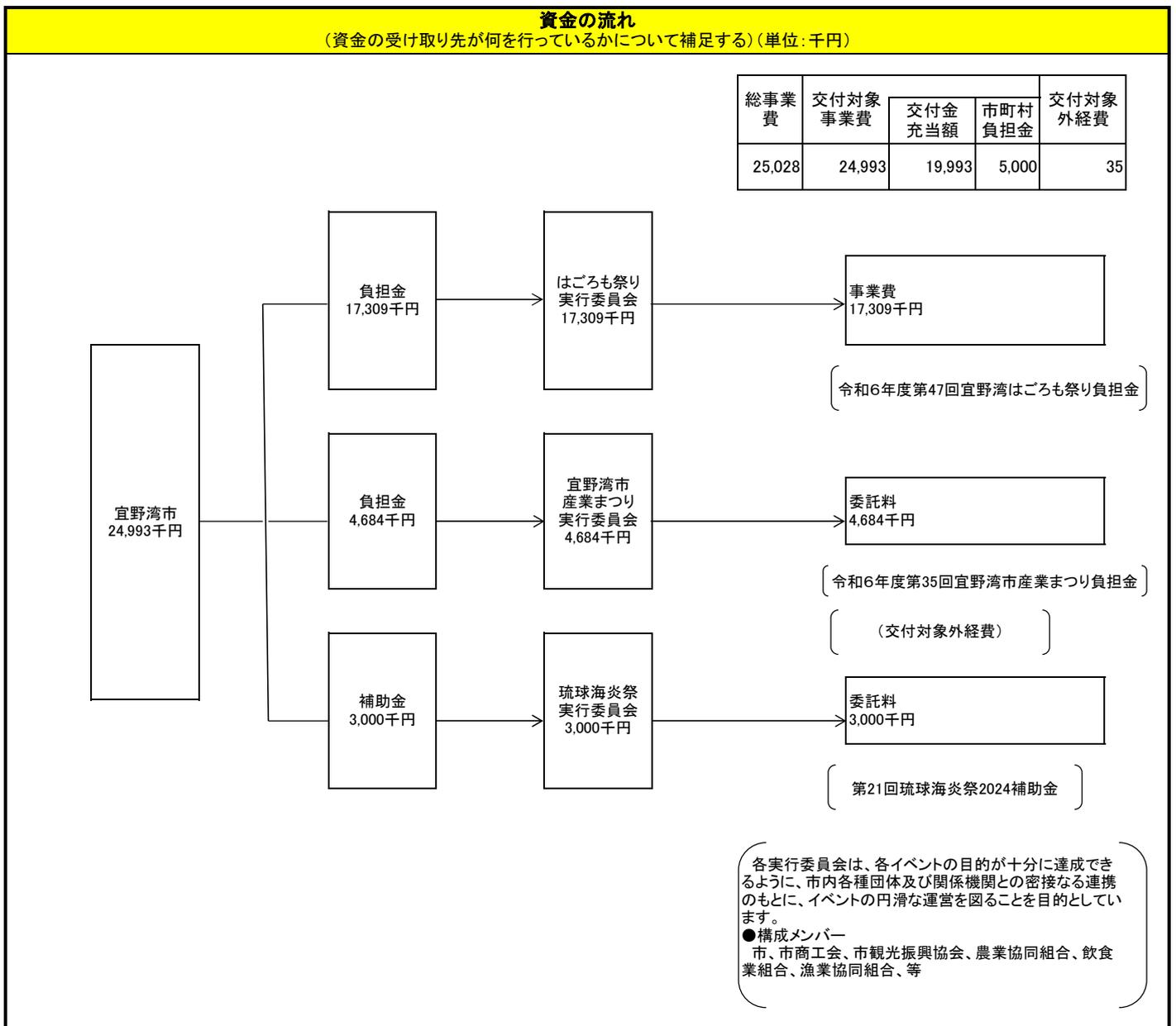


市町村名	宜野湾市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	宜野湾市西海岸エリア活性化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当課名	市民経済部 観光スポーツ課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	県外・海外からの観光誘客を推進するため、R6年度は「はごろも祭り・飛衣羽衣カチャーシー大会」、「産業まつり」、「琉球海炎祭」の開催を支援し、本市西海岸エリアの活性化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	33,201	20,053	34,053	24,653	26,300
		(b) 予算現額	3,400	2,477	17,043	25,953	26,300
		(c) 増減額(b-a)	▲29,801	▲17,576	▲17,010	1,300	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	3,400	2,477	17,043	25,953	26,300
		B. 執行済額	2,252	1,738	16,469	25,953	24,993
		うち交付金充当額	1,802	1,391	13,175	20,762	19,993
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	66.2%	70.2%	96.6%	100.0%	95.0%
	予算の状況の説明	昨年度に続き、物価高騰等の影響により諸々の経費が増加していたが、計画通り実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	「はごろも祭り」、「産業まつり」、「琉球海炎祭」の開催を支援する。		目標 (まつり等への支援)	(まつり等への支援)	(まつり等への支援)	(まつり等への支援)	
			実績 まつり等への支援	まつり等への支援	まつり等への支援	まつり等への支援	
	達成状況説明	・はごろも祭りは、9月28日(土)、29日(日)に開催し、2日間で延べ5.5万人の観客が訪れ、盛況に終わることができた。会場である海浜公園の一部が工事期間中であったため、出店数の削減など規模縮小を行った。 ・産業まつりは、11月23日(土)、24日(日)の2日間宜野湾海浜公園にて開催。両日とも天候に恵まれ、2日間で延べ4.5万人の来場者があり、本市産業振興を市内外にPRすることができた。 ・琉球海炎祭は、4月13日(土)に開催され、県外をはじめ海外からの観光客を含め、1.8万人の来場者があった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	はごろも祭り・・・10万人	目標	()	(16.5万人)	(16.5万人)	(10万人)	()
		実績	/	0人	9.5万人	5.5万人	/
	産業まつり・・・2.8万人	目標	()	(2.8万人)	(2.8万人)	(2.8万人)	()
		実績	/	3万人	4.2万人	4.5万人	/
	琉球海炎祭・・・1.25万人	目標	()	(1.5万人)	(1.75万人)	(1.25万人)	()
		実績	/	1.15万人	1.18万人	1.8万人	/
	進捗状況説明	・はごろも祭りは、開催両日ともに天候不良であったため、プログラムの一部中止や変更等もあったことから、来場者が伸びず目標値を達成できなかった。 ・産業まつりは、ステージイベントや魚つかみ取り、畜産共進会など例年のプログラムに加え、今年度は「ドローン操縦体験」や「お楽しみガラポン抽選会」などの取組みを実施。周知にも力をいれたことで、昨年に引き続き過去最高の来場者数を記録し、目標を達成することができた。 ・琉球海炎祭は、海外からの観光客も増えるなか、台湾からの来場だけではなく他のアジア諸国からの来場者も増えてきていること、また、当日の天候にも恵まれたことで、目標値を大きく上回る来場者があった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・はごろも祭りについては、当日の天候不良のため、来場者が伸びなかった。 ・産業まつりについては、物価高騰等の影響により、年々厳しい運営状況となっている。 ・琉球海炎祭については、これまでの台湾観光客に加え、他アジア諸国からの来場者も増えてきていることから、様々な国に対応したインバウンド対応が求められることになる。 ・西海岸エリアでのイベント開催については、共通事項として駐車場の確保が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候不良による影響の改善策としては、雨天の少ない時期への変更も考えられるが、はごろも祭りは熱中症対策や台風時期の観点から開催時期を変更した経緯があり、近隣のイベントとの調整もした上での変更となっているため、現在の開催日程の変更は難しい。 ・産業まつりについては、イベント内容の見直しや収入確保の取組みを継続して行う必要がある。 ・琉球海炎祭については、今後も、海外からの来場者も増えてくることが予想されるため、SNS等を活用した効果的な周知活動や、様々な国に対応したインバウンド対応が必要となっている。 ・近隣駐車場や商業施設等への協力を要請しながら駐車場の確保に努めながら、来場者へ公共交通機関の利用促進にも取り組んでいく。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・産業まつりについては、今後も継続して開催できるよう、イベント内容の見直しを行いながら、協賛金等の収入確保についても引き続き取り組んでいく。 ・県外へも広く周知できるように、SNS等を活用した効果的な広報活動に取り組んでいく。 ・西海岸エリア内の事業者へ、同エリアで開催されるイベント情報を共有し、イベントが重複しないように調整しながら近隣駐車場、商業施設等へ協力要請を行い、駐車場の確保に努める、また、交通渋滞対策として、来場者へ公共交通機関の利用促進にも取り組んでいく。 		



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先が、市内各種団体及び関係機関で構成される実行委員会となっているため、支出先は妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要な支出と判断している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	企画展開催事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部署名	教育部 市立博物館	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催し、宜野湾市独自の歴史・文化・自然等の継承及び観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,761	3,679	2,757	2,643	5,272
		(b) 予算現額	3,167	3,598	2,428	2,093	4,865
		(c) 増減額(b-a)	▲594	▲81	▲329	▲550	▲407
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	3,167	3,598	2,428	2,093	4,865
		B. 執行済額	3,166	3,565	2,415	2,054	4,813
		うち交付金充当額	2,533	2,852	1,932	1,643	3,850
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	99.1%	99.5%	98.1%	98.9%
	予算の状況の説明	補正にて委託料の執行残額407千円を減額し、交付対象事業は概ね執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	企画展の開催:2本		目標 (2回)	(2回)	(2回)	(2回)	
		実績	2回(交付金対象)	2回(交付金対象)	2回(交付金対象)	2回(交付金対象)	
達成状況説明		交付金を活用した企画展は「洞窟のナゾ展」と「ぎのわんの“字”展(屋取集落編②)」の2本を開催した。「洞窟のナゾ展」では、本市で多く確認されている洞窟に焦点を当て、自然・考古・民俗・戦前、戦後の状況など、多角的な視点から実物資料や模型、写真資料などを用いて分かりやすく展示をし、洞窟や本市を形成する大地について興味を持ってもらうことができた。また、「ぎのわんの“字”展(屋取集落編②)」では、近世の士族層が地方に移住し、新天地で新たな生活を始めた時代から現代に至るまでの過程の紹介に加え、屋取集落での暮らしや文化財についても解説し、郷土への愛着心を育むきっかけを作ることができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	企画展1回あたりの平均入館者数:1,390人以上		目標 ()	(1,470人)	(1,390人)	(1,390人)	()
			実績	1,490人/回	1,345人/回	1,848人/回	
進捗状況説明		○令和6年度の総入館者数は29,600人で、そのうち企画展の入館者数は13,862人(うち、交付金に係る展示会については企画展示室入館者数の合計は3,697人)であった。 ○令和6年度は展示内容の充実化が図られたことや、コロナ禍が終息したことなどによって来館者数が戻り、成果目標を達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>○前年度に比べて来観者が増えたが、10代・20代の若い世代の見学者数が伸び悩んでいる。</p> <p>○来館者が増えるよう、新聞社やテレビ局などにも取材依頼を出しているが、取材に来ていただけない状況がある。</p>	<p>○博物館広報誌・市報などのほかにも、若い世代が企画展の情報を知れるような広報媒体を活用するなど、周知力を高める。</p> <p>○取材依頼を出す際に企画展の魅力が伝わるような案内となるように努める。</p>

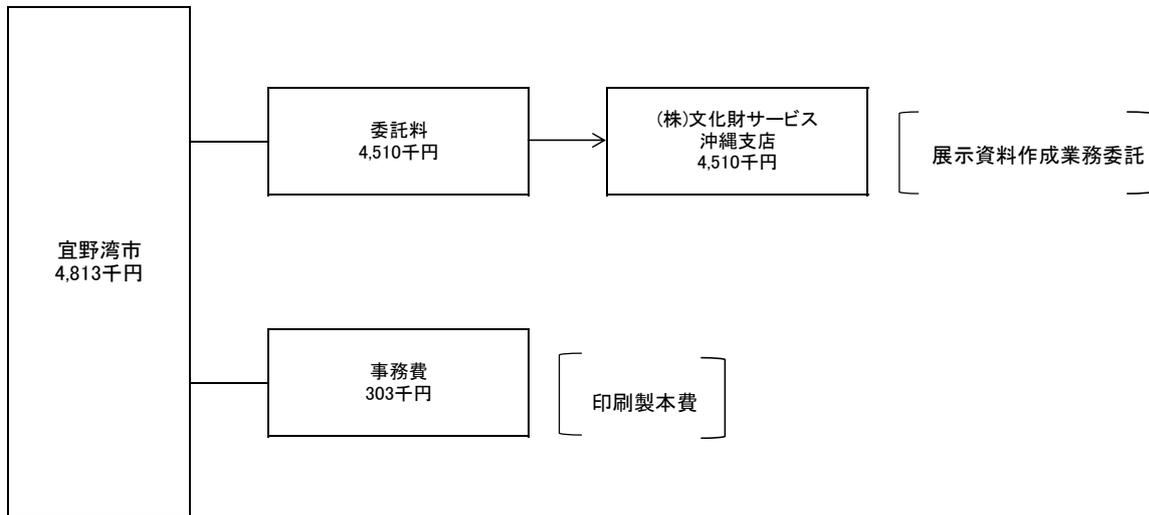
今後の取り組み方針

○これまでの周知活動に加え、多くの若い世代が利用するSNSでの情報発信を強化する。

○引き続き、マスコミ等に取材依頼を出しつつ、当館のSNSも活用し、企画展の情報がマスコミ各社や市民・県民の目に触れやすくなるように取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

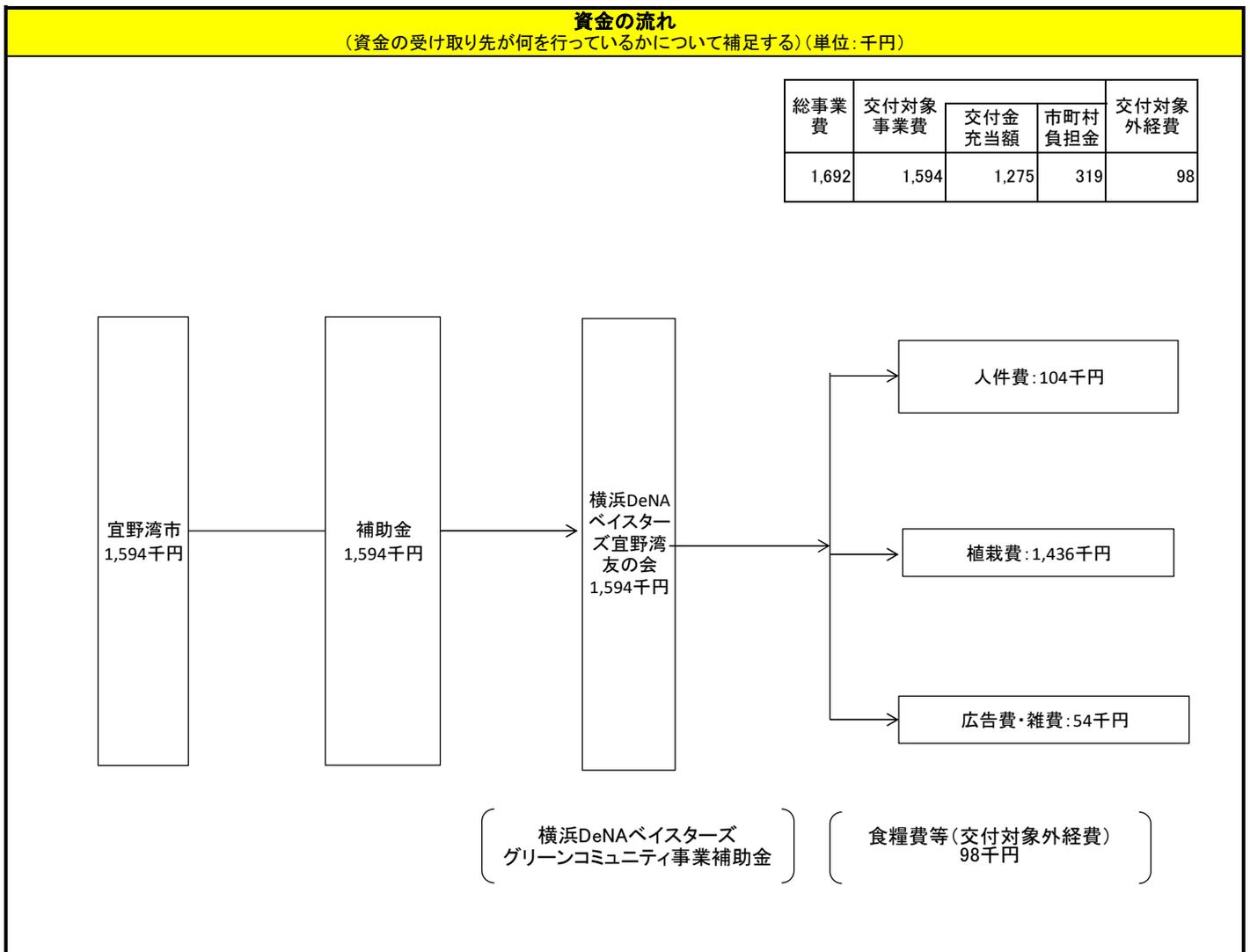
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,813	4,813	3,850	963	0



資金の 用途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札による落札者と契約しており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な額であり、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○用途については、企画展終了後も作成した資料が歴史・文化の学習教材として、または観光PRにも活用ができて、目的や金額は適正だと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティ事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部課名	市民経済部 観光スポーツ課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進		
事業内容	温かい沖縄を全国にアピールするために、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信することで、観光・経済への発展に寄与する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,715	1,715	1,715	1,715	1,715
			1,715	1,457	1,715	1,715	1,715
			0	▲258	0	0	0
			1,715	1,457	1,715	1,715	1,715
			1,554	1,457	1,715	1,571	1,594
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		1,242	1,165	1,372	1,256	1,275
			90.6%	100.0%	100.0%	91.6%	92.9%
	予算の状況の説明		一部執行残が出たが、概ね当初予算額どおり執行することができた。				
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	一万鉢の植樹	目標	(10,000鉢)	(10,000鉢)	(10,000鉢)	(10,000鉢)	
		実績	15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	15,570鉢 うち4,000鉢寄贈	14,000鉢 うち3,000鉢寄贈	13,000鉢 うち2,000鉢寄贈	
達成状況説明	・横浜DeNAベイスターズ宜野湾春季キャンプに伴い球団関係者や監督・選手並びに来場者を気持ちよく迎えるため、野球場を中心とした海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信することを目的に市内団体等の協力のもと実施した。 ・令和7年1月18日に当イベントを実施。当日は晴天にも恵まれ、少年野球チームを中心とした約1,150人のボランティアによって、1万3千鉢の植樹作業を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	キャンプ会場の装飾に対する来場者の満足度	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		65%	73%	71%	
	【参考指標】 プロ野球キャンプ見学者数 目標値(令和元年度):26,000人 基準値(H24年度):22,300人	目標	(22,300人)	(26,000人)	(26,000人)	(26,000人)	()
		実績		29,160人	29,482人	42,803人	
進捗状況説明	プロ野球キャンプ見学者の満足度について目標の80%に対し71%となった。 【回答項目:会場の装飾について】 ①とても良い:29% ②良い:42% ③普通:29% ④良くない:0% ⑤とても良くない:0%						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・見学者数は目標値の26,000人を上回る42,803人となった。2024年にチームが日本一となったこともあり、注目度が上昇したことが要因と思われる。 ・アンケート回収については、昨年同様キャンプガイドブック1000部への折込みを行ったほか、キャンプ来場者へノベルティを配布しながら対面アンケートを実施し、合計192件のアンケートを徴収することができた。 ・アンケート内容は花装飾およびのぼり等に関する満足度となっており、花装飾以外の満足度低下が、目標達成に届かなかった一因だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花装飾による美ら島沖繩の魅力発信や、来場者へのアピールについては、一定の成果はあげていると感じる。 ・今後は会場全体の装飾とも関連して効率向上に努める必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始から15年継続して行ってきた結果、美ら島沖繩の発信、観光・経済の発展への一定の効果は得られたと感じている。一方で、さらなる周知促進を図るための事業展開を模索していくとし、当事業については、令和6年度をもって終了することとする。 		



資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助の支出先として、横浜DeNAベ이스ターズ友の会はキャンプの受入れを行っている団体であり、補助の支出先として妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものであり、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤	ぎのわん美ら海クリーン活動支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-イ		
担当部課名	市民経済部 観光スポーツ課	事業実施(予定)年度	令和3年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	SDGsに適應する観光ブランド力の強化		
事業内容	更なる観光客の誘客を図るため、市観光振興協会を中心としたダイビング、マリンスポーツ事業者等の組織体である「ぎのわんマリンスポーツ協会」へ補助金を支出することで、マリンスポーツ協会の活動であるサンゴの植樹、清掃活動を通して海の環境を保全すること、また観光コンテンツの開発、観光プロモーションなどを支援する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,000	5,000	5,000	4,800		
			5,000	5,000	5,000	4,800		
			0	0	0	0		
			5,000	5,000	5,000	4,800		
	B. 執行済額		4992	4,532	3,850	2,683		
	うち交付金充当額		3993	3,625	3,080	2,146		
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		99.8%	90.6%	77.0%	55.9%		
	予算の状況の説明		活動参加するマリンスポーツ事業者等の受け入れ態勢が整っていない中、自社事業運営と協会事業の日程調整が困難であった事、また、主な事業が海域での作業となっており、海況により計画していた事業が実施できていない部分があったため、予算額4,800千円に対し、2,772千円の補助金を支出した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	ぎのわんマリンスポーツ協会の支援		目標 (ぎのわんマリンスポーツ協会への支援)	(ぎのわんマリンスポーツ協会への支援)	(ぎのわんマリンスポーツ協会への支援)	(ぎのわんマリンスポーツ協会への支援)		
実績		実施	実施	実施	実施			
達成状況説明	本市の海の観光資源を保全するために、海中清掃活動(2回)や、サンゴの食害生物の駆除(1回)及びサンゴの植樹(300株)を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
			目標	()	(200人)	(400人)	(800人)	()
	ダイビング客:800人/年		実績		542人	560人	487人	
	進捗状況説明	令和6年度は、例年よりも海況が時化(しけ)の状態が比較的に多く、ダイビングを安全に実施できる日が少なかったため、目標達成には至らなかった。						

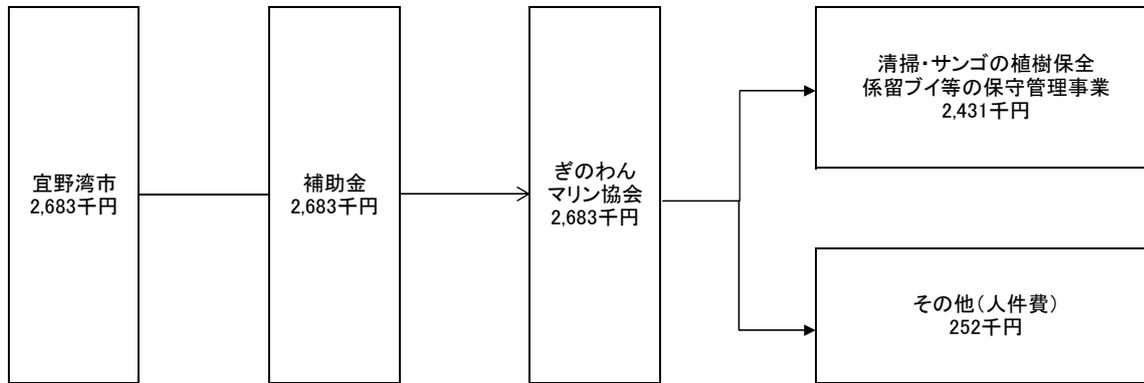
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・主な事業が海域での作業となっているため、天候や海況によっては計画した事業が実施できない場合がある。このため、事業を中止せざるを得ない日があり、ダイビング日数を想定より確保できなかったことが、成果目標を下回った要因である。</p>	<p>・天候や海況の影響により事業が実施できない状況も想定し、早めの事業実施等、延期日程も考慮した事業スケジュールの計画が必要となっている。</p>

今後の取り組み方針

・進捗状況を確認しながら、計画している事業を執行できるように支援していく。
 ・観光客等への認知度をあげていくため、引き続き、ホテル事業者等の観光関連事業者へ周知しながら、持続的に広報活動が行えるように支援していく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,772	2,682	2,146	536	90



〔ぎのわん美ら海クリーン活動支援事業補助金
2,772千円〕

〔●交付対象外経費 90千円
事務局雑費〕

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助の支出先として、ぎのわんマリン協会は市観光振興協会を中心として、漁業協同組合、市ダイビング協会等で構成された団体であり、補助の支出先として妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであり、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市
------	------

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	スクールソーシャルワーカー活用事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-ア
担当部課名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	子どものライフステージに応じたつながる仕組みの構築及び県民運動の展開
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 課題を抱える児童生徒及びその保護者等に働きかけ、児童生徒が抱える課題を改善するため、スクールソーシャルワーカー(SSW)等を配置し、学校及び関係機関と連携し支援活動を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	36,225	31,513	35,114	35,690	38,988
	(b) 予算現額	35,527	30,185	31,642	27,970	36,705
	(c) 増減額(b-a)	▲ 698	▲ 1,328	▲ 3,472	▲ 7,720	▲ 2,283
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	35,527	30,185	31,642	27,970	36,705
	B. 執行済額	34,609	28,311	29,874	26,461	36,153
	うち交付金充当額	27,687	22,648	23,899	21,168	28,922
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	97.4%	93.8%	94.4%	94.6%	98.5%
予算の状況の説明	不用額は報酬の時給の差額分の補正減と執行残。					

活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況			
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
SSW13名の配置	目標	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW12名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW13名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW13名	(コーディネーター4名) SSW9名
	実績	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW14名	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW13名	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW10名	コーディネーター4名 SSW9名
SSWによる児童生徒の支援数	目標	(565人)	(565人)	(489人)	(428人)
	実績	489人	428人	439人	483人
達成状況説明	年間を通した切れ目のない支援に取り組む必要があるため、通年を通したスクールソーシャルワーカーの任用と、小学校への配置を行い、学校生活に課題のある児童生徒・保護者の支援に取り組んだ。SSWを配置し、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう環境を整えたり、保護者に対しては家庭環境に関する問題の解決に向けて、関係機関と連携して支援を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
		不登校や課題の改善に向けて変容が見られた割合、前年度実績以上	()	(56%)	(56%)	(36%)
			44%	36%	42%	
		()	()	()	()	()

進捗状況説明 貧困やヤングケアラー等、課題の改善が容易ではないケースも多く、継続や見守りが増えた。支援が必要な児童生徒は増えているので、支援の手を途切れさせることなく継続して支援を行い改善へと繋げる。

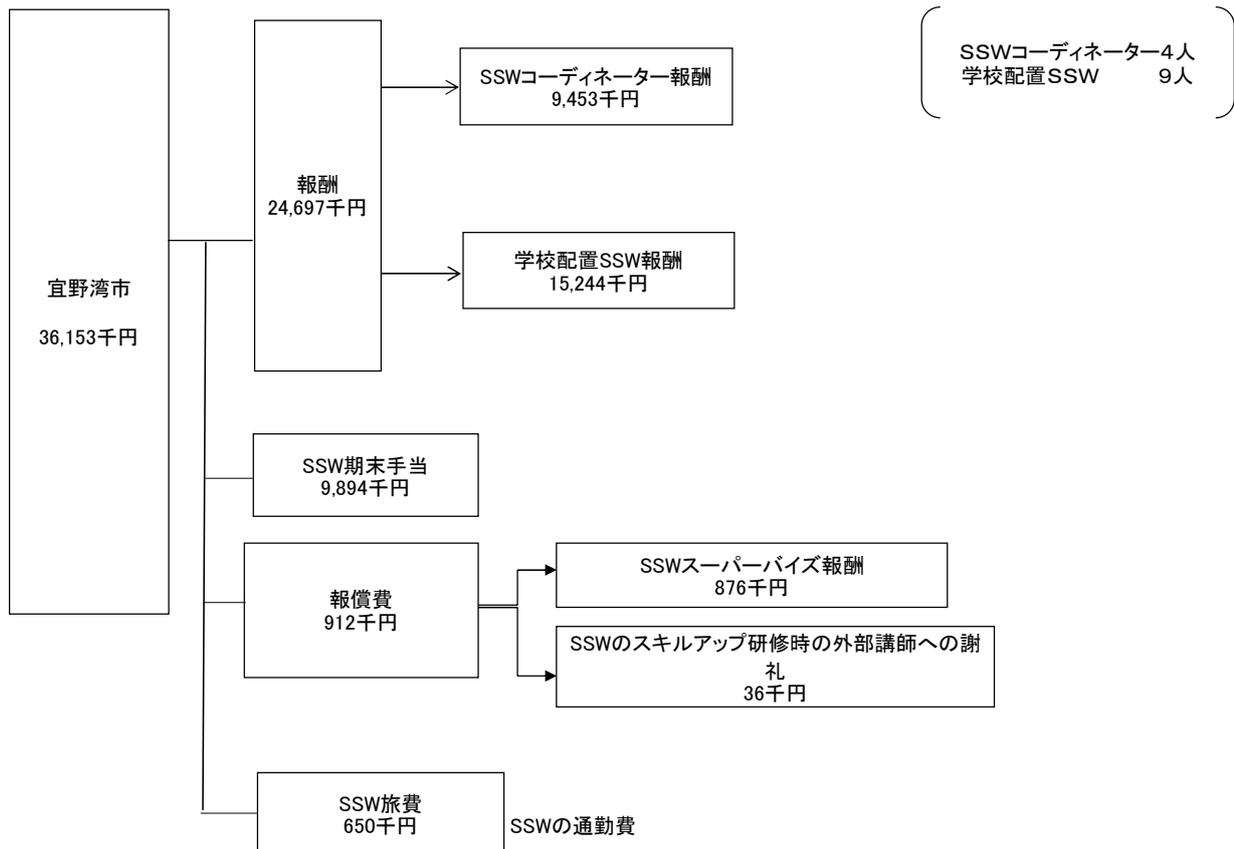
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度と比較して、SSWが確保できず未配置となる期間が少なくなったことにより、前年度実績を上回ったと考えられる。 ・子ども一人ひとりの抱える問題が複雑化・多様化している。 ・切れ目のない相談支援を行うために、学校、関係機関等と連携した支援体制、連携強化が必要不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通してSSWを配置する。 ・課題を抱える児童生徒の支援のために学校現場等に足を運び、学校や関係機関との情報共有、行動連携を行い、それぞれの役割に応じた支援体制を強化する。 ・SSWが関わっている支援について、課題が改善されるケースもあるが、課題の改善への変化が見られないケースもあるので、改善に繋がるよう、粘り強く児童、保護者、学校と連携を図りながら、課題の解決に向け取り組んでいく。

今後の取り組み方針

- ・切れ目のない支援に取り組むため、通年でSSWを採用していく。
- ・継続して事業に取り組めるよう、SSWの採用について市のホームページやハローワークへの掲載依頼を行い人員の確保に努める。
- ・相談者が抱える様々な課題に対応できるよう定期的な研修会の開催をとおしてスキルアップを図り、職員同士の情報共有の機会を設ける。
- ・SSWを配置して、子ども本人だけでなく、保護者、教職員、関係機関と連携しながら、子どもたちが安心して学校生活を送れるようサポートする。
- ・夏休み期間中の居場所実施を効果的にするために、夏休みまでに支援対象者との関係性を作る機会を多く持つ。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
36,153	36,153	28,922	7,231	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市
------	------

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	適応指導教室事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ
担当部署名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 不登校児童生徒の学校適応を促進するするため、不登校児童生徒の適応指導に関わる調査研究、教育相談を実施し、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊・自然体験学習活動及び他校との交流体験活動を実施する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	4,138	4,405	4,711	4,746	5,559
	(b) 予算現額	4,495	3,710	4,527	4,474	3,344
	(c) 増減額(b-a)	357	▲695	▲184	▲272	▲2,215
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	4,495	3,710	4,527	4,474	3,344
	B. 執行済額	4,495	3,709	4,378	4,312	2,999
	うち交付金充当額	3,595	2,967	3,502	3,449	2,399
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	96.7%	96.4%	89.7%
予算の状況の説明	適応指導員1名の未配置期間(12ヶ月)の報酬等および、入級児童生徒の心身状態を考慮し、宿泊学習の実施を見送ったことによる旅費の減額により、3月補正等で2,215千円を減額し、概ね計画通りに執行した。					

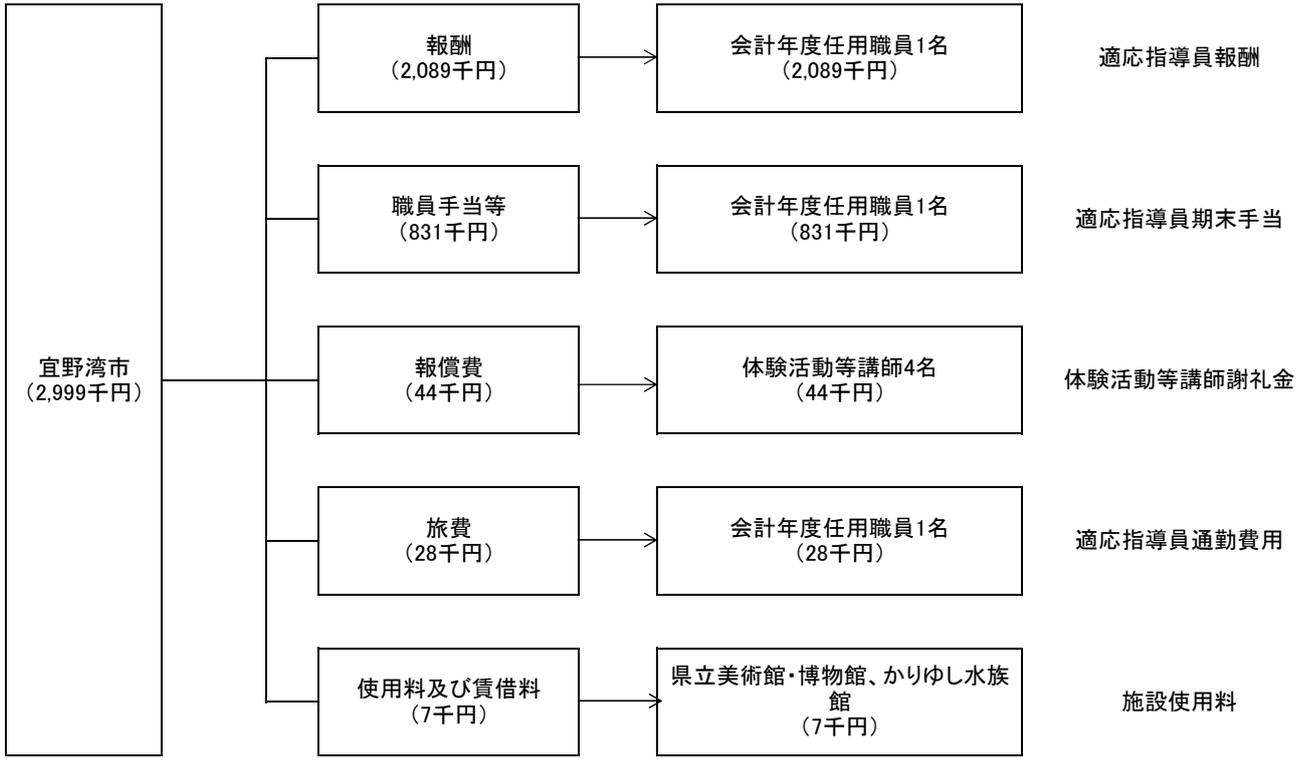
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況			
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	入級児童生徒の集団活動や学校適応に関する支援を実施する。 (適応指導教室入級児童生徒数)	目標 (8名)	(8名)	(2名)	(2名)
	実績	4名	2名	2名	3名
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は適応指導教室に3名の児童生徒を受け入れた。小集団での集団適応能力向上のため、社会体験活動、制作体験活動、調理活動、毎週金曜日のスポーツ活動や勤労生産活動を随時実施した。 学習面においては、学習者用端末を活用したドリルでの学習や、原籍校職員による夏季休業中の「出前講座」や原籍校での特別授業を実施するなど原籍校教諭との関わりを持った。 支援系の臨床心理士と連携することで、見通しを持った計画的・組織的な支援計画のもとで支援が出来た。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
		(R5から)入級児童生徒が適応指導教室または原籍校へ登校できた日数:出席すべき日数	目標 ()	()	(60%)	(65%)	()
		実績			64.1%	85.0%	
	(R4まで)適応指導教室に通級している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒の率 10%	目標 ()	(10%)	()	()	()	
	実績		50%				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標「入級児童生徒が適応指導教室または原籍校へ登校できた日数:出席すべき日数の60%」について、出席率85.0%で目標達成となった。正式入級3名のうち、2名(中3、中1)は年度途中での入級であったが、前年度から入級している1名(中3)を含め全員が適応指導教室への安定した通級ができた。 支援内容としては、体験学習や他適応指導教室等との交流を実施したほか、2名が中学3年生だったこともあり、高校受験に向け学習の取り組みを強化して実施した。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・正式入級3名のうち、2名が中学3年生で高校受験を控えていたことから若葉教室での下記の取組みが、比較的安定した登所に繋がったと思慮する。</p> <p>(1)「アーリーバード」(若葉教室を卒業して、現在社会で活躍している先輩に当時の思いや体験談、進路の歩みなどの講話や児童生徒との交流をもつ)を例年より早い時期に実施し、進路選択や受験勉強への意欲を高める取組みをした。</p> <p>(2)若葉教室担当教諭等による個人面談の回数を増やした。</p> <p>(3)原籍校との連携を密にし、原籍校と生徒の関わりを定期的に持つことに努めた。</p> <p>・適応指導員1名について、1年を通して任用できなかった。</p>	<p>・学校復帰のみを目指すのではなく、学習機会の確保やコミュニケーション能力向上、社会的自立に重きを置いた支援もより一層充実させる必要がある。</p> <p>・適応指導員について、1年を通して任用できるようにする。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>事業及び支援内容をより明確に示して公募するなど適正配置に努めるとともに、入級児童生徒の学年や発達段階に応じた学習支援や、社会的自立を促す支援方法を熟知した指導員の任用や指導員のスキルアップ支援に取り組む。また、関係各所と連携を密に図り、入級する児童生徒への支援充実に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,999	2,999	2,399	600	0



資金の 使途の 流れ 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市
------	------

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	児童生徒等相談事業	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-ア
担当部課名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	子どものライフステージに応じたつながる仕組みの構築及び県民運動の展開
事業内容	不登校等の課題の改善に取り組むため、臨床心理士、青少年教育相談指導員を配置し、学校や関係機関と連携しながら相談等支援を行う。			
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)			
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()			

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	12,626	12,626	14,250	14,442	18,329
	(b) 予算現額	14,462	11,920	13,584	11,003	13,265
	(c) 増減額(b-a)	1,836	▲706	▲666	▲3,439	▲5,064
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計(b+d)	14,462	11,920	13,584	11,003	13,265
	B. 執行済額	13,762	10,204	13,291	10,538	12,895
	うち交付金充当額	11,010	8,163	10,633	8,430	10,316
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	95.2%	85.6%	97.8%	95.8%	97.2%
予算の状況の説明	当初予算額と実績額の差は、職員未配置期間にかかる報酬の補正減と執行残。					

活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
		臨床心理士等5名の配置	目標	(5名)	(5名)	(5名)
		実績	6名	5名	4名	5名
	臨床心理士等による児童生徒の支援数	目標	(150名)	(189名)	(189名)	(214名)
		実績	189名	214名	197名	180名
達成状況説明	支援数は180名となっており、相談内容は、不登校に関するものが最も多く、次いで学業・進路に関する相談、家庭に関する相談となっている。					

成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)		
		学校生活への適応や状況改善に向けて変容が見られた割合前年度実績以上	目標	()	(26%)	(26%)	(31%)	()
			実績		18%	31%	41%	
進捗状況説明	継続支援が必要な児童もいるため、引き続き学校と連携し、放課後児童生徒が少なくなった時間を見計らって、校内や教室に入ってみたりと、工夫を図りながら児童生徒の小さな体験を積み上げて、支援児童生徒の自信につながるよう取り組んでいる。							

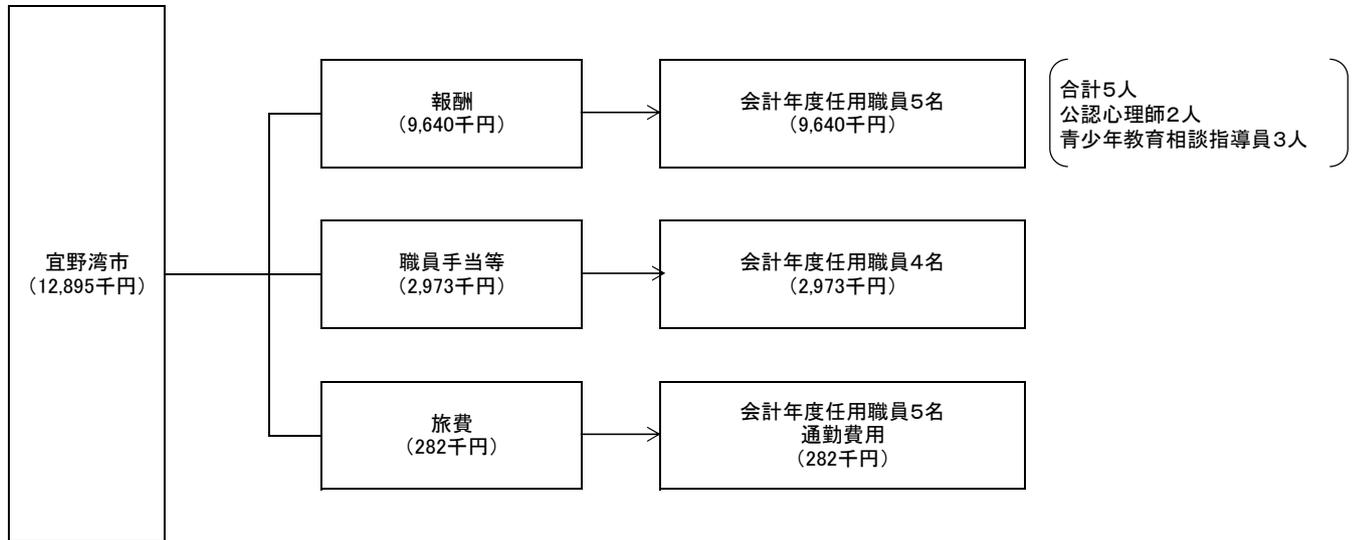
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰や進学、主訴解決などが増えたことにより、改善に向けた変容が見られた割合が増加した。 ・相談内容は、不登校や、学業・進路に関する相談、家庭に関する相談など、様々である。またスマホ等でゲームを行う時間が長時間となり、生活リズムが乱れ、昼夜逆転しているケースが見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が中断することなく継続して取り組めるよう対策を講じる。 ・長期的な支援が必要なケースもある。 ・生活リズムを整えられるような支援が必要。

今後の取り組み方針

・今後も、臨床心理士(公認心理師)による支援の見立てを元に、相談者のニーズに応じた支援に繋がるよう、学校や関係機関との連携に努める。
 ・保護者と連携し、生活リズムを整えられるような来所相談のスケジュールを組んだり、来所相談の中でゲーム以外の楽しさも感じられるような体験ほか、校内での本人の成功体験が積み上げられるような環境づくりに取り組む。
 ・問題解決が容易でない児童生徒に対する支援の手を途切れさせることなく、継続した支援に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,895	12,895	10,316	2,579	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市
------	------

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④	非行防止等巡回活動事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-イ
担当部課名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	子ども・若者の育成支援
事業内容	問題行動の未然防止等青少年の健全育成に寄与するため、街頭指導員を委嘱し、夜間街頭指導等を実施して、青少年が問題行動に向かう初期の段階に必要な注意、助言、指導を行う。			

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	1,960	1,876	1,890	1,848	1,960
		(b) 予算現額	1,425	1,876	1,403	1,748	1,627
		(c) 増減額(b-a)	▲ 535	0	▲ 487	▲ 100	▲ 333
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	1,425	1,876	1,403	1,748	1,627
	B. 執行済額		1,064	889	1,295	1,662	1,526
	うち交付金充当額		851	711	1,036	1,251	1,220
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		74.7%	47.4%	92.3%	95.1%	93.8%
	予算の状況の説明		台風接近、荒天等による巡回活動の中止による、補正減及び執行残。				

R6活動目標(指標)		達成状況			
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
週3回の夜間街頭指導	目標	(134回)	(135回)	(130回)	(130回)
	実績	69回	111回	121回	125回
街頭指導員配置数	目標	(16名)	(16名)	(16名)	(16名)
	実績	16名	20名	18名	18名
研修の実施回数	目標	()	()	()	(1回)
	実績				1回
特別街頭指導(中学卒業式)の実施	目標	()	()	()	(実施)
	実績				実施
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り各中校区から4人を委嘱し、夜間巡回指導を市内の公園を中心に4人1グループの4班体制で週3回実施。 ・外にでる子ども達が増える傾向にあり、前年度に比べて声掛け件数が増えた。 				

R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
		年間の街頭指導実績件数が、前年度実績の12%減	目標	()	(前年度実績の12%減)	(前年度実績の12%減)
実績			対前年比36%増(370件)	対前年比43%増(528件)	対前年比43%増(759件)	
[参考指標] 街頭指導員による声掛け指導件数	目標	()	(240件)	(325件)	(464件)	()
	実績		370件	528件	759件	
進捗状況説明	・前年度に比べ夜間街頭指導件数が増えている。(対前年比43%増)					

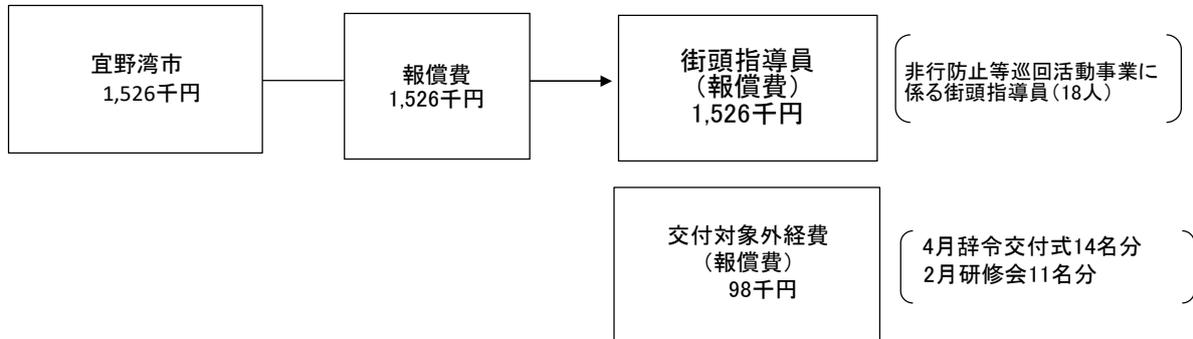
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・家族背景の複雑化やSNS普及によるつながりの急激な広がりにより、夜間外にでる生徒が増えていることが指導件数の増加の要因と思慮される。 ・教職員の働き方改革に伴い、ボランティアで街頭活動に参加していた職員の参加控えの意見等もある中、青少年の深夜はいかいが減少していない状況から、より一層、街頭指導員による定期的な街頭指導が重要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で子供達を見守る健全な環境づくりを推進するため、地域や関係機関との連携強化が必要。 ・学校には、近隣住民から子どもたちが夜集まっている場所等の報告があるため、学校と情報共有することで効率的な巡回に努める。

今後の取り組み方針

・週3回の夜間巡回指導を継続して行い、青少年の非行防止、安全の確保見守りを図り、地域の大人が協力して、青少年が安全にそして健全に成長できる環境作りについて粘り強く取り組んでいく。
 ・街頭指導の重要性がより増しているため、地域と連携を図りながら情報収集に努め、夜間子ども達が多く集まる公園等を重点的に、非行に繋がる深夜徘徊の抑止力となるよう夜間巡回に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,624	1,526	1,220	306	98



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 宜野湾市

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名 2-⑤ 学習支援員活用事業 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第4章-5-(2)-ア

担当部課名 指導部 指導課 事業実施(予定)年度 平成24~令和13年度 沖縄振興基本方針該当箇所 III-3-(1)

事業内容 学習に遅れをとっている児童・生徒が自ら学ぶ意欲を高め、小学校において算数、中学校において数学の基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かにサポートする学習支援員を配置し、児童・生徒の学習状況や定着度に応じた学習の支援を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他

Table with columns for fiscal years (R2 to R6) and rows for budget status (initial estimate, current estimate, adjustments, etc.).

Table showing activity goals (R6) and achievement status (R3 to R6) for learning support staff configuration.

Table showing achievement goals (R6) and progress status, including learning achievement survey results and standardized test scores.

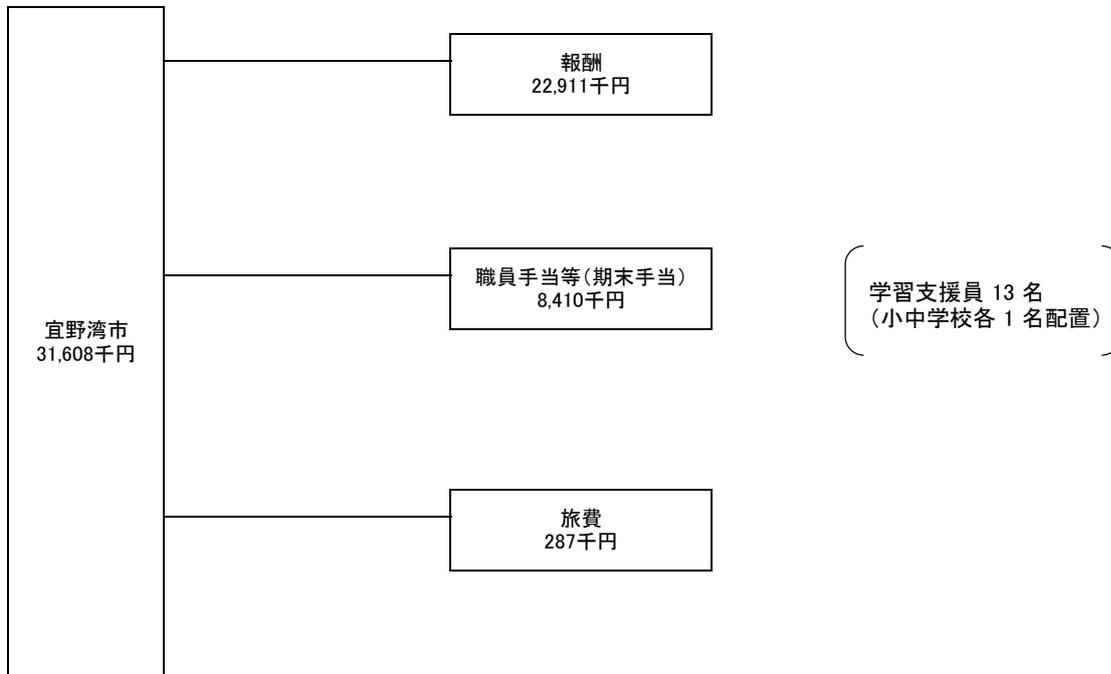
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果と県学力到達度調査の結果を分析し、今後の授業改善の取組に生かす必要がある。 ・小学校においては算数が県平均以上の学力はあるが、単元や項目によって苦手分野があり課題である。 ・各小中学校において、学校間差や学級間差、教科間差が見られるなど、市全体での授業スタイルを統一し、各間差をなくす取組を今後も継続して推進していく必要がある。 ・家庭教育力の低下に加え、教師の人材不足等、学校を取り巻く環境が著しく変化してきているのが懸念材料である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力到達度調査の結果分析による実態把握及び本市の各種学力調査の成果と課題について徹底した分析を行う必要がある。 ・幼小中連携事業を通して、幼小中中学校が共通の課題を認識し、学びの連続性の確立が必要である。 ・目標指数にはまだ及んでいない教科については、学級間差の課題が一番大きい要因である。今後、小学校においては教科担任制の導入や、また学年主任や教科主任等、ミドルリーダーの育成をさらに充実させ、課題解決につながるよう、校長会や教頭会、担当者会、学校訪問等を通して支援していく。

今後の取り組み方針

- ・学習支援員の指導技術を向上させるため、年3回の研修会(研修会・授業研究会)を計画的に実施し、各学校において効果的に学習支援ができるよう研修会の充実を図る。
- ・小学校での成果を中学校へ引き継ぐこと「学びのたすき」や中学校での生徒の課題を小学校教師が把握するなど、小中連携を推進し、課題である間差を縮める取組を継続実施する。
- ・中学校においては、指導主事による数学担当教諭の授業観察を一人につき2回(1学期と2学期)に実施し、指導助言を行う。そして、授業改善の変容を見届けるようにする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
31,608	31,608	25,286	6,322	0



資金の流 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥		派遣費補助金交付事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ウ	
担当部課名	指導部 学務課		事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進	
事業内容	児童・生徒の文化活動及びスポーツを奨励するため、学校教育の一環として県外に派遣される場合に要する旅費等を補助金として交付し、その活動を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,358	1,430	984	3,728	2,378
		(b) 予算現額	118	1,032	984	3,728	2,378
		(c) 増減額(b-a)	▲2,240	▲398	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	118	1,032	984	3,728	2,378
	B. 執行済額		118	1,032	984	2,821	2,366
	うち交付金充当額		94	825	787	2,257	1,893
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	75.7%	99.5%
予算の状況の説明		ほぼ当初予算どおり、執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	県外派遣される団体や個人への支援を実施	目標	(団体への支援)	(団体への支援)	(団体への支援)	(団体への支援)	
		実績	団体への支援を実施した	団体への支援を実施した	団体・個人への支援を実施した	団体・個人への支援を実施した	
	支援団体数	目標	文化活動団体数:4団体 スポーツ活動団体数:9団体	文化活動団体数:2団体 スポーツ活動団体数:12団体	文化活動団体数:1団体 スポーツ活動団体数:9団体	文化活動団体数:2団体 スポーツ活動団体数:12団体	
		実績	文化活動団体数:1団体 スポーツ活動団体数:11団体	文化活動団体数:1団体 スポーツ活動団体数:7団体	文化活動団体数:2団体 スポーツ活動団体数:26団体	文化活動団体数:3団体 スポーツ活動団体数:29団体	
達成状況説明	文化活動団体3体、スポーツ活動団体29団体(個人12名を含む)支援を実施し、目標を達成していると考える。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	アンケート調査において、対象児童生徒の視野が広がったとの回答【80%】	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		96%	98%	98%	
進捗状況説明	対象児童生徒の保護者へのアンケートの結果「子どもの視野が広がったと思う」との回答が80%以上あり、目標を達成していると考ええる。 ※アンケート調査結果、「視野が広がったか」の問いに対し、参加人数127人中124人が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した。						

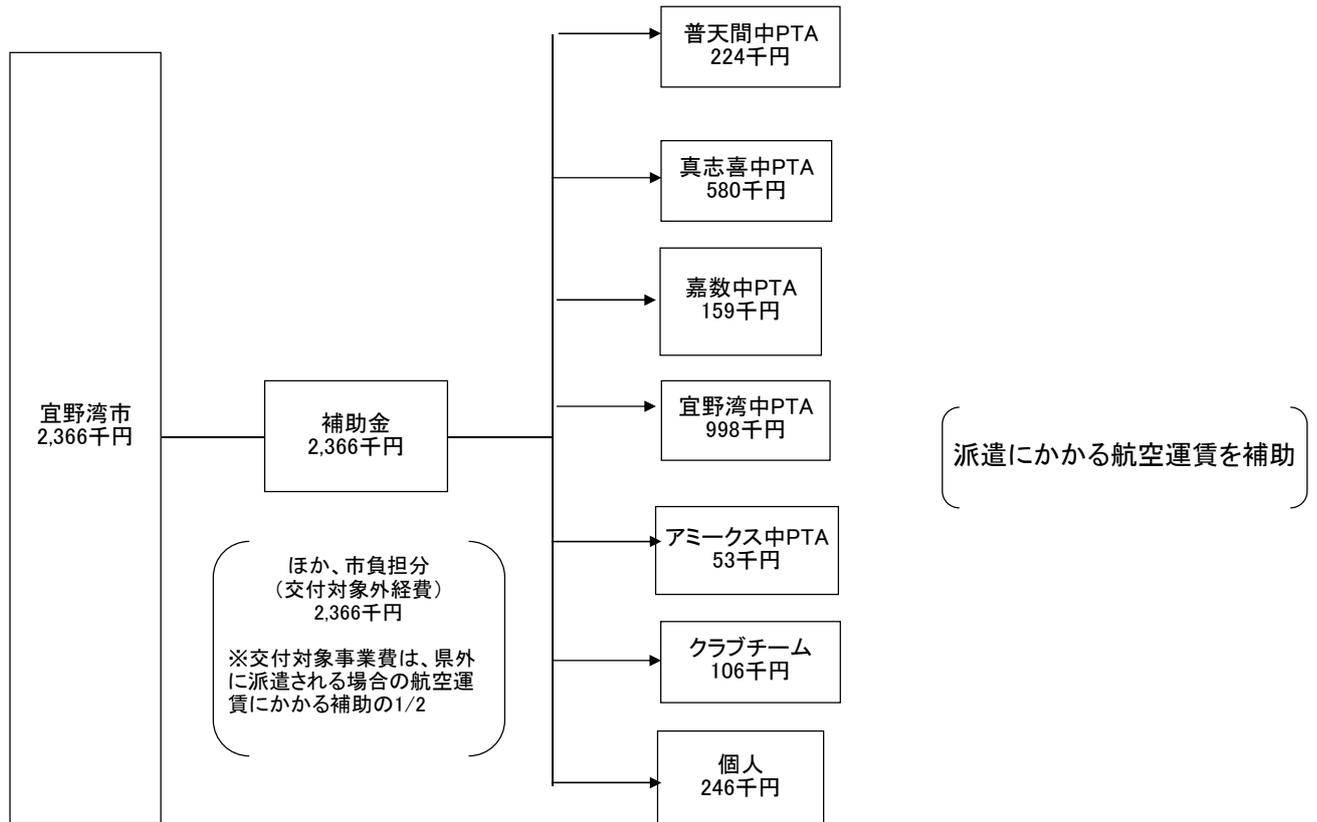
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	令和5年度から部活動の地域に移行する取組として中体連へのクラブチーム参加が可能となっており、令和6年度は中体連に参加したクラブチームの県外派遣があった。 関係団体へ照会するなどして中体連に参加するクラブチームの把握と県外派遣費に関する周知をすることが課題となる。	地域移行予定のクラブチームの把握を図り、事業の推進を図る。

今後の取り組み方針

地域移行されたクラブチームの情報収集を関係団体へ図りつつ、部活動の地域移行に伴って本事業の根拠規定の見直しが必要かどうか検討し、スムーズな移行に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,732	2,366	1,893	473	2,366



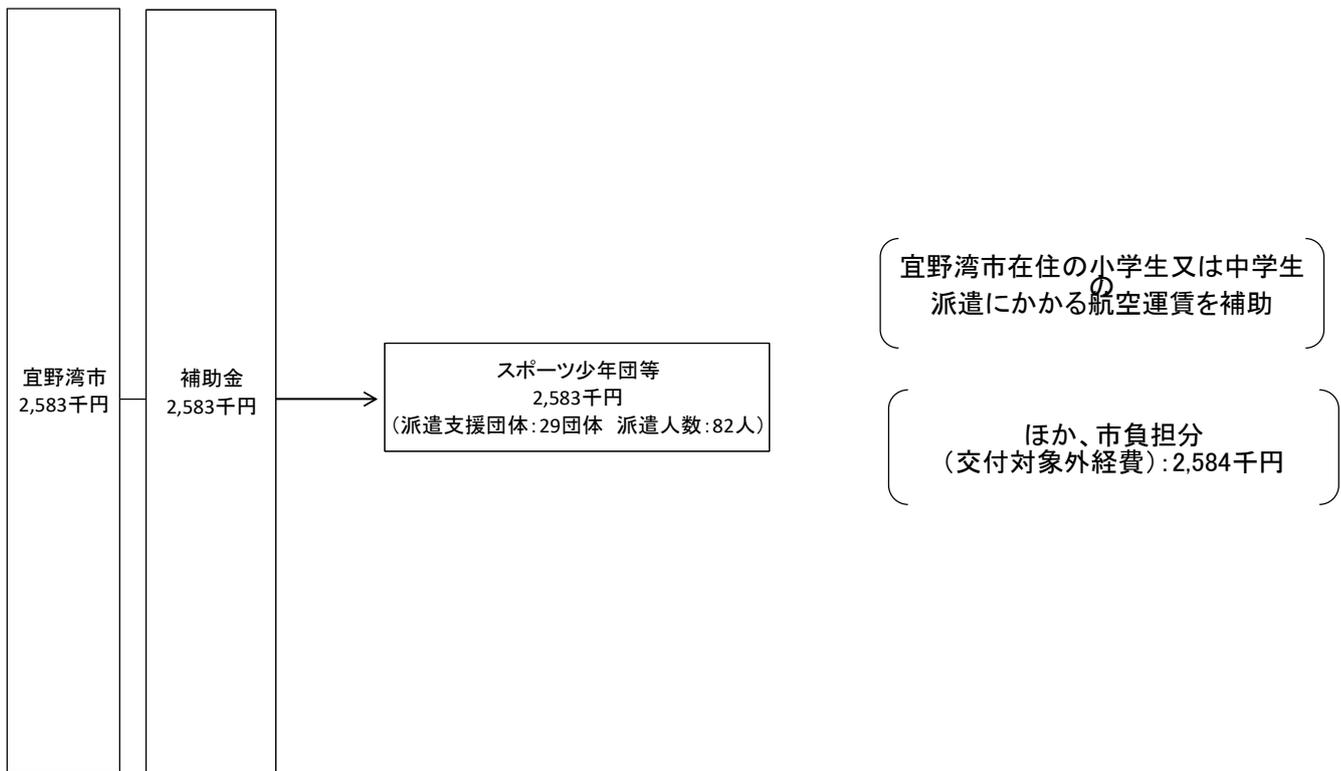
資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先であるPTAに関しては学校と連携を取りながら、クラブチームや個人の場合でも保護者や責任者と連携しながら手続きを行っているため、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支援団体へ事前調査を実施し、適正な規模となるよう調整した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○市(教育委員会)で定める要綱に基づき補助額を決定しているため受益者との負担関係は妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については交付申請前の大会要項の確認、実績報告の内容を精査した上で交付決定を行っているため適正である。

市町村名	宜野湾市						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	スポーツ少年団派遣費補助事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-イ	
担当課名	市民経済部 観光スポーツ課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県民等が主体的に参画するスポーツ環境の整備	
事業内容	スポーツ活動による児童・生徒の健全育成を図るため、スポーツ少年団等の県外派遣等に要する経費に対し補助金を交付し、その活動を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,130	1,130	1,324	1,324	4,383
			1,130	1,621	1,324	2,945	4,383
			0	491	0	1,621	0
			1,130	1,621	1,324	2,945	4,383
	B. 執行済額		541	919	942	1,254	2,583
	うち交付金充当額		432	735	754	1,003	2,066
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		47.9%	56.7%	71.1%	42.6%	58.9%
予算の状況の説明		R5年度の「宜野湾市スポーツ少年団等県外等派遣に関する補助金交付要綱」改正に伴い、申請件数および補助金交付申請額が増加。交付金対象事業に係る執行率は約59%となった。(参考:申請件数R5:29件 → R6:45件、補助金交付額R5:4,302千円 → R6:9,746千円) 不用額については、一括交付金の対象となる経費が見込みより少なかった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	県外へ派遣された団体への支援を実施する(支援人数:200人)		目標 (派遣補助)	(派遣補助)	(派遣補助)	(派遣補助)	
			実績 派遣補助実施	派遣補助実施	派遣補助実施	派遣補助実施	
達成状況説明	・派遣人数は150人、そして派遣団体数は45件となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	【成果目標】アンケート調査において、「対象児童生徒の視野が広がった」の回答:80%以上		目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績	100%	100%	100%	
	進捗状況説明	・成果目標である児童生徒並びにその保護者を対象にアンケート調査を実施し、調査の結果「視野が広がったか」との問いに対し、「そう思う」又は「どちらかと言えばそう思う」の割合が100%であった(参考:アンケート回答数132件中、「そう思う」又は「どちらかと言えばそう思う」が132件(100%)であった)。 ・当初の目標通り、児童生徒の県外派遣補助金を交付することにより、市内の児童生徒の県外への派遣が推進され児童生徒の健全育成を図ることができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度に行った「宜野湾市スポーツ少年団等県外等派遣に関する補助金交付要綱」の改正により、派遣費の補助対象者の枠が広がったため、昨年度より増加傾向にある。 ・今後も部活動の地域移行に伴い、スポーツ少年団未加入の新たなクラブチームの増加が見込まれるため、それに応じた予算の確保に留意が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容についての精査、また補助対象者の範囲など検討を行っている。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容や補助対象者など、社会情勢や市民からの要望等も踏まえながら、適宜、制度の見直しを視野に入れながら事業を実施していく。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
5,167	2,583	2,066	517	2,584



資金の流 れ、費 目・ 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各種競技において県代表など優秀な成績を収めた団体から実績等を提出させ、内容を精査した上、補助金交付決定を行っているため、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について、一括交付金の対象外経費の精査に時間を要し、過大となっているので、次年度は最終交付決定までに精査できるよう努める。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○宜野湾市スポーツ少年団県外等派遣に関する補助金交付要綱に基づき補助額を決定しており、受益者との負担関係は妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については支出に係る書類等を確認後、交付額の確定を行っており、適正であった。

市町村名		宜野湾市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑧ 特別支援教育支援員派遣事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ			
担当部署名	教育委員会指導部 指導課		事業実施(予定)年度	平成28～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	公平な教育機会の確保と学習環境の充実 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	宜野湾市立の幼小中学校における特別な配慮を要する幼児・児童・生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を派遣し、適切な声かけや支援を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	106,948	99,494	105,009	112,969	136,206	
		(b) 予算現額	94,487	90,585	92,075	109,996	143,920	
		(c) 増減額(b-a)	▲12,461	▲8,909	▲12,934	▲2,973	7,714	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		94,487	90,585	92,075	109,996	143,920	
	B. 執行済額		91,562	86,691	90,509	108,742	143,343	
	うち交付金充当額		73,249	69,352	72,407	86,993	114,674	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		96.9%	95.7%	98.3%	98.9%	99.6%	
予算の状況の説明		予算残については、素案提出時の期末率の差額及び年度当初の未配置、年度途中での退職者等による残。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	特別支援教育支援員派遣 (幼稚園:10人、小学校:46人、中学校:16人)		目標 (77名)	(72名)	(72名)	(72名)		
		実績	72名	72名	71名	72名		
達成状況説明		配置人数については、年度途中での退職者及び未配置が2名(令和7年3月31日時点)。また、支援の必要性に応じ適切に配置できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	学校、保護者の満足度:95%以上		目標	()	(95%)	(88%以上)	(95%)	()
			実績		95.6%	96%	94%	
	【参考指標】 令和4年度から、アンケート項目に追加した「支援対象児の変容」に関する項目に対し、保護者と学校側からの良い変容が見られたと回答した割合。		目標	()	(88%)	(88%以上)	(82%)	()
			実績		85.6%	91%	86%	
進捗状況説明		・参考指標として、「対象児の変容」に対し、無回答の保護者が8%おり、その理由欄に「学校での様子がわからない」という回答があった。						

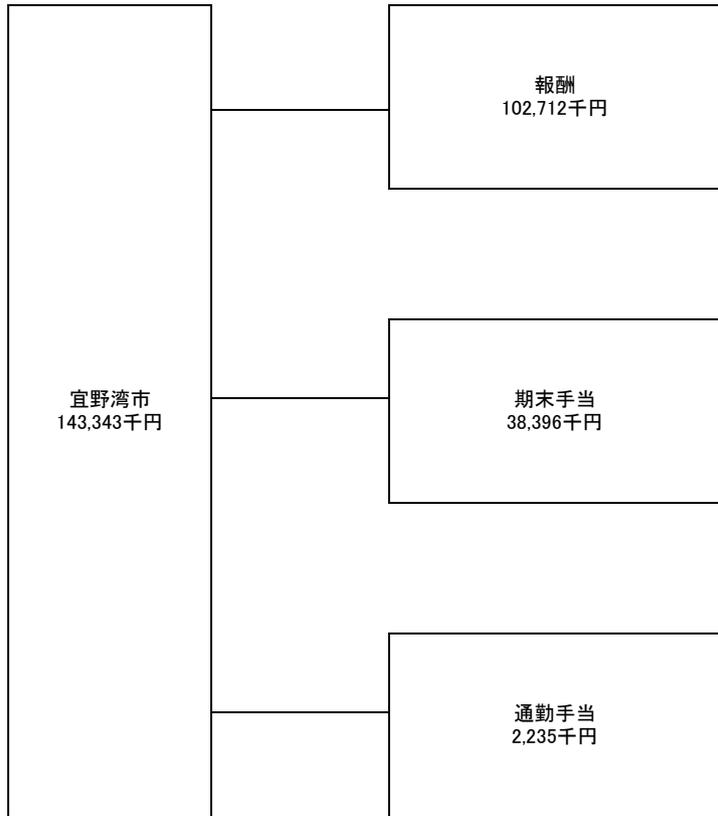
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 満足度の割合が、目標の95%に対し、実績が94%になった理由として、保護者からの意見、「支援員を増やし、より一人一人の子を見守り、支援してほしい」というものが多くあったためである。 各学校からの特別支援教育支援員派遣申請により、特別支援教育支援員を配置している。派遣申請は令和2年度754件、令和3年度854件、令和4年度949件、令和5年度1,036件、令和6年度992件、派遣数のニーズとしてとても高い。R6年度は学校現場の状況から支援員72名の配置予定に対し、最大72名を配置した。年間を通して、安定的な支援員の確保に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する幼児児童生徒の人数が年々増加しているが、特別支援教育支援員の数は限られている。そのため、支援の必要度を数値化し、客観的な視点から支援体制の工夫を行い、更なる効率的な活用に努める。 子ども一人ひとりの教育的ニーズに合った支援をするためには、教職員や支援員の資質向上を図る必要がある。そのため、研修会の内容を適宜工夫し、特別支援教育への理解を深められるよう継続して行う。 特別支援教育コーディネーターや担任との共通理解を図ることが重要であるため、園や各学校で情報交換を密に行う。 安定的な支援員の確保に努める。

今後の取り組み方針

- 特別支援教育支援員の安定的な人材を確保するため、ホームページやハローワーク等を活用して求人募集を行う。
- 特別支援教育支援員へアンケートを行い、雇用継続に繋げていく。
- 特別支援教育支援員の資質向上を図っていくため、研修会の内容を工夫し、継続して行う。
- 特別支援教育の充実を図るため、今後も継続して学校や関係機関、保護者と連携を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
143,343	143,343	114,674	28,669	0



臨床心理士2名
コーディネーター1名

特別支援教育支援員
派遣延べ名数:
幼稚園:12名
小学校:51名
中学校:19名

資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	文化財保存整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及		
事業内容	文化財を適切に保存し、市民、観光客等に公開活用できるよう、文化財の石積修復や安全対策、修景などの整備を行い、市の歴史・文化の継承を図る。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R8年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	48,015		-	7,326	7,029
		(b) 予算現額	41,739		-	6,820	6,655
		(c) 増減額(b-a)	▲6,276	0	-	▲506	▲374
		(d) 繰越額	0	29,199	-	0	0
		A. 計(b+d)	41,739	29,199	-	6,820	6,655
	B. 執行済額		12,540	29,143	-	6,820	6,655
	うち交付金充当額		10,032	20,381	-	5,456	5,324
	次年度繰越額		29,199		-	0	0
	執行率(%) (B/A)		30.0%	99.8%	-	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		R6年度の文化財保存整備事業の委託料の契約執行残額を補正減とした。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況					
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	野嵩スディバナピラ石畳道の整備の実施設計・用地測量の実施	目標	()	()	(業務委託実施)	(業務委託実施)	
		実績			業務委託実施	業務委託実施	
	【参考指標(~R4)】 本部御殿墓及び野嵩クヌカカーの保存整備工事を実施した。	目標	(野嵩クヌカカー保存整備工事)	(本部御殿墓保存整備工事)	()	()	
実績		実施	実施				
達成状況説明	R6年度に、野嵩スディバナピラ石畳道の整備の実施設計及び用地測量(境界設置)を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(8年度)	
	野嵩スディバナピラ石畳道の整備の実施設計・用地測量の完了	目標	()	()	(完了)	(完了)	(公開)
		実績			完了	完了	
	【参考指標(~R4)】 本部御殿墓の保存整備工事を完了した。	目標	()	(本部御殿墓保存整備工事)	()	()	()
		実績		完了			
進捗状況説明	野嵩スディバナピラ石畳道の整備の実施設計を完了し、次のステップである保存整備工事につなげることができた。						

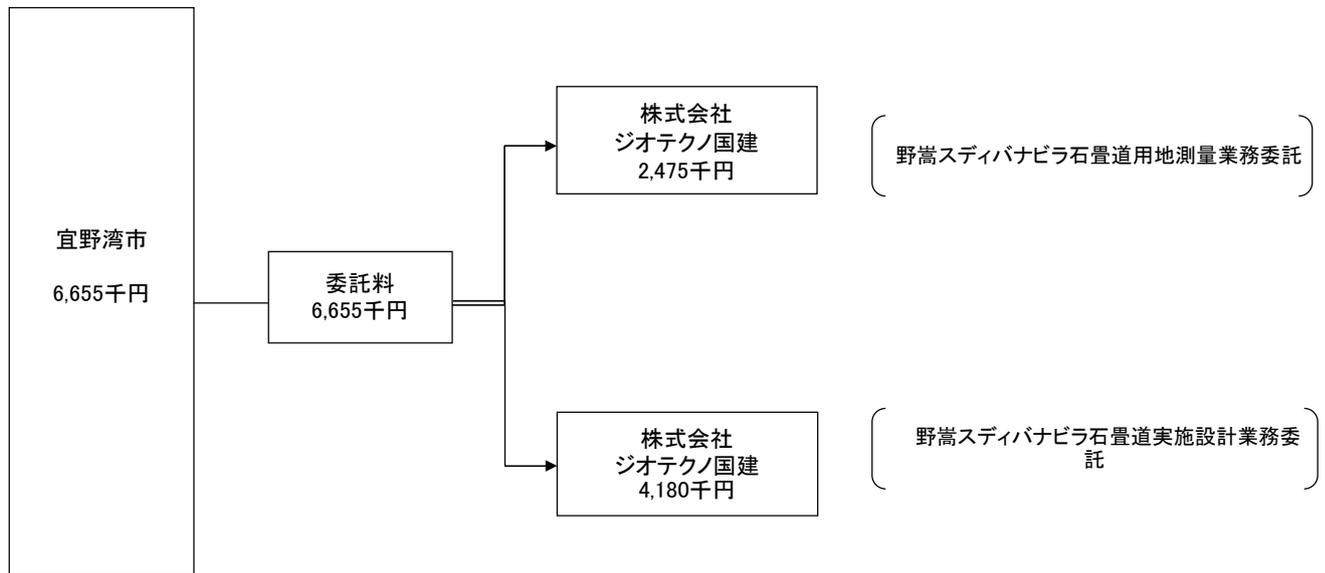
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 多くの文化財は地域の生活に欠かせないものであり、また、拝所として所在地に住む方々の信仰の対象であった。現在では、それら当時の生活を垣間見られる対象として多くの方が現地を訪れるが、長年の風雨等により、石畳の表面の摩耗、石垣のはらみや崩落や損壊などがみられ、文化財の価値を損ねている。 修復が必要な指定文化財がある一方、整備計画等がなく、整備に取り掛かれていない。 文化財調査により、道遺構が隣地に広がっていることが判明した。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象となる文化財の現状を踏まえ、文化財的価値を回復させるよう、また、当該文化財の利活用に向けて事業立案時より、所有者・地域住民・来訪者(文化財めぐりの参加者等)・学識経験者から十分に意見・要望等を徴した後に整備に着手する必要がある。 各指定文化財ごとに整備計画をたて、崩落状況や整備環境などから優先順位を検討する。 整備計画で事前に指定文化財所有者との調整を行う。 隣地の遺構も当時の文化財であり、整備対象とすることで文化財の価値を高めることができる。

今後の取り組み方針

- 各文化財の所有者・地域住民・来訪者及び学識経験者等の意見・要望等を十分に反映させ、課題を解決し、安全性を優先しつつ整備を行う。
- 文化財調査及び設計の参考となるよう、地域住民より当該文化財の情報を得るようにし、情報が得られれば設計に反映する。
- 保存整備が必要な文化財が多くあるため、それぞれの文化財活用までも視野に入れた整備計画をとりまとめ、優先順位を決めて行う必要がある。
- 整備計画をまとめられるよう文化財所有者と更なる密な調整を行い計画をまとめる。
- 隣地地権者と調整、整備同意を得て整備を行い、地権者に不利がないように、また、今後の活用で支障がないよう必要に応じた対策を講じる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,655	6,655	5,324	1,331	0



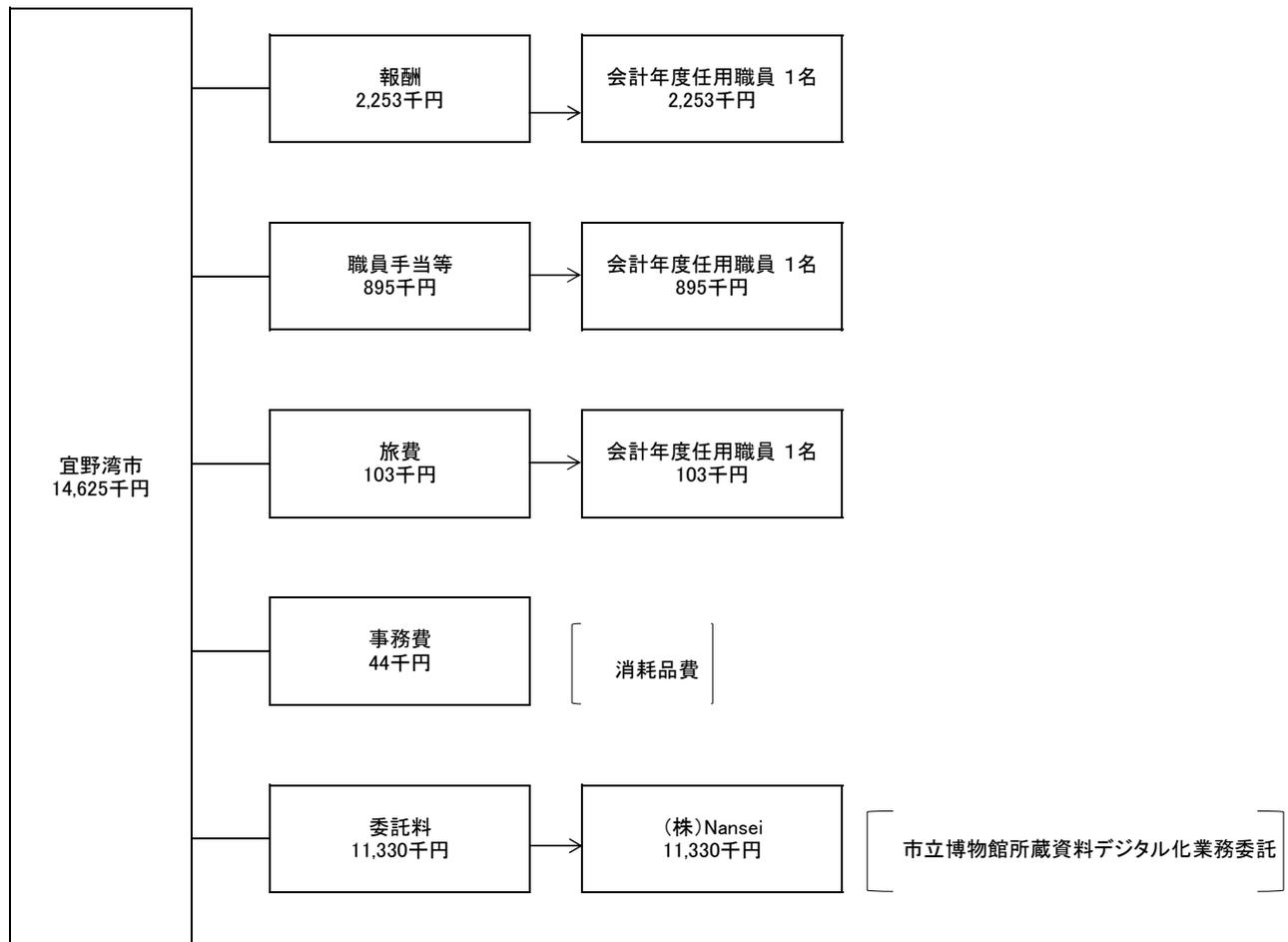
資金の 用途の 流れ 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○両委託ともに指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。委託業者も実績、知識等を勘察した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	歴史公文書等整理・活用事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育部 市立博物館	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及	
事業内容	市立博物館が所蔵する写真資料や歴史公文書等を次世代へ継承していくため、資料等を整理し基準に沿って公開し、広く周知を行い、利用者の活用を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		21,941	24,142	14,460	16,595	15,062
			21,905	23,272	13,660	15,576	14,627
			▲36	▲870	▲800	▲1,019	▲435
			0	0	0	0	0
			21,905	23,272	13,660	15,576	14,627
	B. 執行済額		21,905	23,271	13,660	15,567	14,625
	うち交付金充当額		17,524	18,617	10,928	12,454	11,700
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%
予算の状況の説明		補正にて、委託料の執行残額596千円の減額及び職員報酬の不足額161千円の増額をし、交付対象事業は概ね執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	公開基準に基づいた歴史公文書の公開		目標 (公文書の一部公開)	(公文書の一部公開)	(公文書の一部公開)	(公文書の一部公開)	
	実績		歴史公文書の一部を公開した	歴史公文書の一部を公開した	歴史公文書の一部を公開した	歴史公文書の一部を公開した	
	デジタル化済み写真データの情報入力及び情報入力が済んだ写真データの公開		目標 ()	(写真データの情報入力及び一部公開)	(写真データの情報入力及び一部公開)	(写真データの情報入力及び一部公開)	
実績			写真データの情報入力をし、一部を公開した	写真データの情報入力をし、一部を公開した	写真データの情報入力をし、一部を公開した		
達成状況説明		○公開基準に則って、個人情報などのマスキング処理を施した歴史公文書史料を順次公開した。令和6年度は8冊を公開し、公開件数は合計で53冊となった。 ○これまでにデジタル化及び情報入力を済ませた写真資料を順次公開した。令和6年度は636点の公開を行い、公開件数は合計で1,292枚となった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
				(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
	アンケートを実施し、市の歴史や文化への理解が深まった方の割合が80%以上とする。		目標 ()				
	実績			100%	100%	100%	
進捗状況説明		資料利用者へのアンケートを実施し、16件中回収した13件のアンケート結果において、すべてが5段階評価のうち「5」であったことから、「市の歴史や文化への理解が深まった」という割合は100%となった。「市の歴史や文化への理解が深まった」評価を4以上とした。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○資料の情報入力等を進め、公開件数を順次増やしているが、利用者数の伸び悩んでいる状況がある。	○引き続き、資料の利用者数を増やすために、企画展や博物館広報誌および市報など、市民の目にできるかぎり触れるように活用して、歴史公文書や写真資料などの存在をより多くの方々を知ってもらうように努める。
今後の取り組み方針		
○歴史公文書及び写真資料などの公開件数を順次増やしていくために、歴史公文書に掲載されている個人情報等のマスキング処理や写真資料の被写体に係る情報入力等を継続して進め、公開件数を増やしていく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
14,625	14,625	11,700	2,925	0



資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札による落札者と契約しており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な額であり、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については、「事業目的の達成の観点から必要なものか」等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認をし、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	平和市民啓発事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(1)-イ	
担当部課名	市民経済部 市民協働課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄戦の実相・教訓の次世代継承 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する平和大使を育成するとともに、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを市民に啓発するため、市内中学校や市内商業施設等で平和祈念事業を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,507	3,571	3,916	4,050	4,303
		(b) 予算現額	2,440	2,365	3,916	2,439	4,303
		(c) 増減額(b-a)	▲1,067	▲1,206	0	▲1,611	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	2,440	2,365	3,916	2,439	4,303
	B. 執行済額		2,420	2,338	3,741	2,439	4,298
	うち交付金充当額		1,935	1,870	2,992	1,951	3,438
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.2%	98.9%	95.5%	100.0%	99.9%
予算の状況の説明		・啓発イベントの実施のほか、平和大使を育成するなど概ね計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	目標	研修に派遣する人数 ・市内中学生:8名、市内青年層:1名 ・フォローアップ研修:1回	(平和大使育成9名 フォローアップ研修1回)	(平和大使育成9名 フォローアップ研修1回)	(平和大使育成9名 フォローアップ研修1回)	(平和大使育成9名 フォローアップ研修1回)	
		実績	平和大使育成9名 フォローアップ研修1回	平和大使育成9名 フォローアップ研修1回	平和大使育成9名 フォローアップ研修1回	平和大使育成9名 フォローアップ研修1回	
	目標	平和大使を活用した啓発イベント実施回 ・5回	(5回)	(5回)	(5回)	(5回)	
実績		5回	5回	5回	5回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中学生8名及び青年層1名の計9名を平和大使として任命。 ・昨年度(令和5年度)の平和大使のフォローアップ研修を実施(1回) ・中学校イベント(4校)では、ワークショップ、平和大使新聞掲示、平和大使の活動報告を行った。また、市民イベント(1回)では、市民図書館において、平和イベント(平和多文化絵本読み聞かせ、平和大使の活動報告)を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	目標	本事業に参加した生徒や市民からアンケートを徴取し、 (1)「平和に対する理解が深まった」 (2)「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う」と回答する割合:80%以上	()	((1)80% (2)80%)	((1)80% (2)80%)	((1)80% (2)80%)	()
		実績		(1)97% (2)93%	(1)96% (2)88%	(1)95.4% (2)87.2%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果、「平和に対する理解が深まった」と回答する割合を80%と設定したのに対し、95.4%理解が深まったと回答を得た。 ・「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う」と回答する割合を87.2%に設定したのに対し、88%という結果であった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本事業に参加した生徒や市民からアンケートを徴取し、</p> <p>(1)「平和に対する理解が深まった」と回答する割合80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校イベント、市民イベントを通して、平和大使の活動で学んだことの共有 ・平和劇を用いて追体験する内容を取り入れたことが目標値達成の要因と考えられる。 <p>(2)「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う」と回答する割合80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを通して、戦争の悲惨さや、命の尊さを知り、平和を継承していく大切さに気づくことができたことが目標値達成の要因となったと考える。 	<p>「平和に対する理解が深まった」及び「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う」と回答する割合が目標値を達成したことについては、次代を担う人々、特に若い世代にとって同年代の平和大使を身近な存在と捉え、活動内容に興味関心を引きつけることができたものと考ええる。</p> <p>また、相乗効果として自ら学んだことを誰かに伝えたいと思うきっかけにもつながっており、引き続きこの取組みを充実させていく。</p>

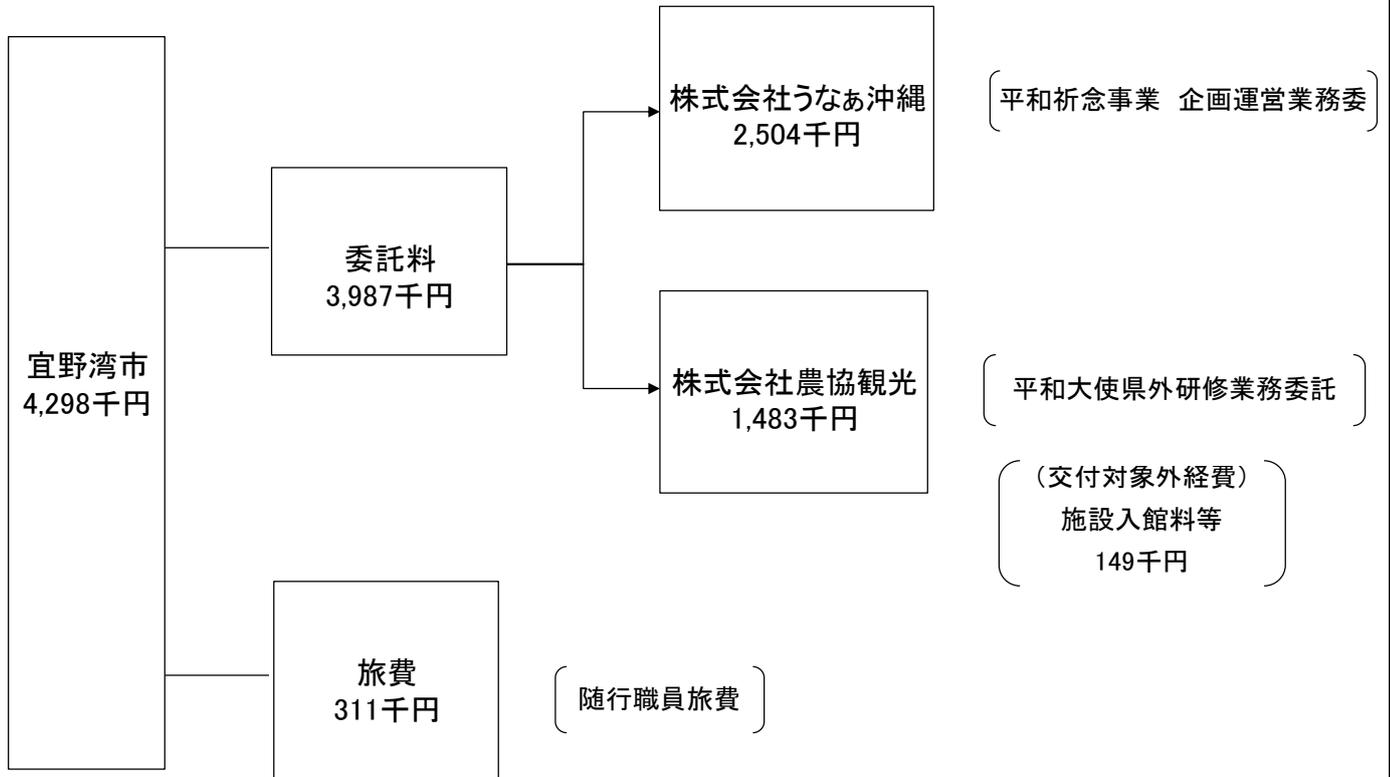
今後の取り組み方針

・平和大使育成事業は、今後も安定的に平和について市民啓発を行うため、毎年「平和大使(中学生8名、青年層1名)」の育成を行う。

・平和祈念事業は、広く市民の平和意識の高揚をはかるため、Web発信などを通して市民啓発に取り組む。また、戦争を経験していない若い世代が平和な世界を継続するため、自分ごととして考える機会を確保できるよう取り組みたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
4,447	4,298	3,438	860	149



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先選定については、プロポーザル方式により決定した業者で、妥当であった。 ○事業に見合った適正な予算規模であった。 ○費目、用途については、事業目的達成のために必要なものに補助しており、支出は適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 宜野湾市

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (4-②), 英語教育推進事業, 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所, 第4章-5-(3)-ア. Includes 担当部課名 (指導部 指導課) and 事業実施(予定)年度 (令和4年度~令和13年度).

事業内容 小中学校において積極的に英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指し、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うとともに、学習に対する意欲を高め、学力の向上を図る。

効果発現年度 ■当年度 □後年度(年度)

実施方法 ■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()

Table showing budget and execution status. Columns: 予算の状況 (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額, (d)繰越額, A.計, B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A). Rows for R4, R5, R6 years.

Table showing activity goals and achievement status. Columns: R6活動目標(指標), 達成状況 (R4年度, R5年度, R6年度). Includes goals for ALT deployment and achievement status.

Table showing achievement goals and progress status. Columns: R6成果目標(指標), 基準値(年度), R4年度, R5年度, R6年度, 目標値(年度). Includes goals for English proficiency and progress status.

進捗状況説明 「英語が好き」と答えた児童の割合が、昨年度と同数の81.0%であった。中学校は、質問項目が変わった為、極端に上がった。小学5、6年：児童英語検定、全国と本市との平均正答率の差が、+0.3ポイントとなり、昨年度同様全国平均を上回った。沖縄県学力到達度において、県と本市との平均正答率の差が、-0.4ポイントであり、昨年度より若干減少した。

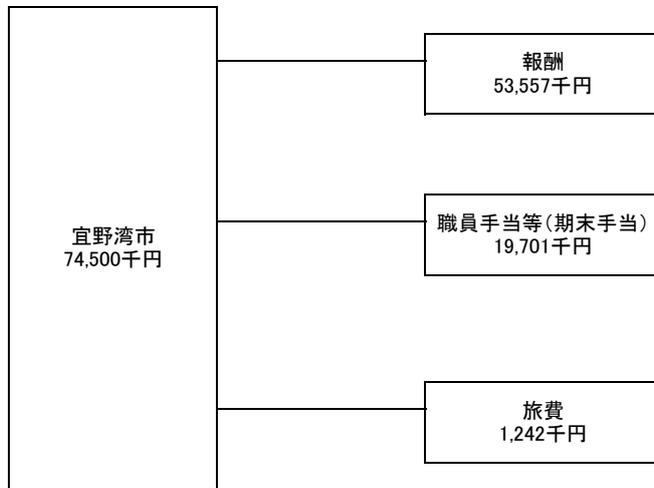
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・R6県到達度調査において、学年ごとの県平均差は、中1が-2.0、中2が1.2の状況であり、中1が著しく低い結果であった。毎年、学年の実態等により多少の増減はあるが、今回はかなり厳しい状況であった。 ・ALTは外国籍の方が多いため、文化の違いから生じる働き方への見解の違いがある。 ・ALTの継続的な確保に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ALTを効果的に活用した授業の質的向上に取り組むとともに、授業における学級担任との役割分担についても研修等を通してさらに改善していく必要がある。 ・ALTを効果的に活用し、ネイティブな発音と英語学習への意欲のさらなる向上を図るため、研修会等の内容をさらに充実させていく必要がある。 ・途切れることなくALTを配置できるようにする。 ・文化の違いから生じる働き方への見解の違いを説明していく必要がある。

今後の取り組み方針

- ・年に4回の研修会(研修会2回、授業研究会2回)を実施し、ALTの資質・能力の向上を図る。
- ・「会話」分野の改善に向けて、音声や基本的な表現に慣れ親しませるなどの授業カリキュラムを盛り込むとともに、1～4年の英語質問項目や小学5・6年の児童英検の結果分析により実態を把握し、授業改善に生かす。
- ・教師の声かけにより英語学習に対する意欲を高め、英語検定の受験者数のさらなる増加を図る。
- ・指導主事(英語担当)を中心に、学校長によるALTの授業参観及び指導助言を通して、ALTの指導力向上を図り、小中で連携した英語教育を今後もさらに推進していく。
- ・途切れることなくALTを配置できるよう、年度末の面接時に次年度継続の意思を前もって確認するとともに、文化の違いから生じる働き方の違いについて説明していく。
- ・「会話」分野の授業カリキュラムを検討するとともに、他学年の結果分析を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
74,500	74,500	59,600	14,900	0



ALT 計20名
 小学校 9校 各1～2名
 中学校 4校 各1名
 ALTコーディネーター 1名

資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	学校ICT活用指導支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ		
担当部課名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	児童生徒の情報活用能力の向上を図るため、ICT支援員配置することで、児童生徒がICTを活用し興味・関心を高めるなどの教育効果を図ることができる授業の支援、教職員向けの校内研修(ICT活用研修)の実施、ICT機器整備に関する施策・事業計画の作成を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,195	5,419	4,991	5,031	15,458
		(b) 予算現額	6,002	3,426	4,446	4,307	15,458
		(c) 増減額(b-a)	807	▲1,993	▲545	▲724	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	6,002	3,426	4,446	4,307	15,458
		B. 執行済額	6,002	3,425	4,298	4,155	15,444
		うち交付金充当額	4,801	2,740	3,438	3,323	12,355
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	96.7%	96.5%	99.9%
	予算の状況の説明	概ね計画通り事業執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	ICT支援員3名配置(R6から)情報夏期講習13回	目標	(-)	ICT支援員2名(夏期講習会13回)	ICT支援員2名(夏期講習会13回)	ICT支援員3名(夏期講習会13回)	
		実績	-	2名13回	2名7回	3名13回	
	(R3年度まで) ・情報夏期講習会 13回 ・情報教育研究会検証授業 4回 ・ICT活用主任担当員1名・ICT活用補助員1名配置	目標	情報夏期講習13回、検証授業4回実施、2名	()	(-)	(-)	
実績		0回11回2名		-	-		
達成状況説明	・公募型プロポーザルにて受託事業者を選定し、ICT支援員3名を配置した。 ・情報夏期講習会は各校1回ずつ、合計13回実施した。(学習支援ソフト及び学習eポータル操作研修) ・ICT支援員による定期的な学校巡回訪問に取り組み、教職員への支援を積極的に実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	教員にアンケート調査を実施し、授業にICTを活用して指導できる割合	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績	/	小学校:72.3% 中学校:54.2%	小学校:99.4% 中学校:96.7%	小学校:100.0% 中学校:98.7%	/
	児童生徒にアンケート調査を実施し、ICT機器活用により授業が分かりやすかったと答えた割合	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績	/	小学校:94.2% 中学校:92.9%	小学校:89.9% 中学校:88.8%	小学校:94.0% 中学校:87.2%	/
進捗状況説明	(教員)小・中共に目標を達成することが出来た。アンケートは、3学期末に実施し、教材作成等でICT機器を活用できるか等について問い、集計した。 (児童生徒)ICT機器(電子黒板、デジタル教科書、GIGAスクール1人1台端末、学習支援ソフト)を使った授業について、「分かりやすい、どちらかというと分かりやすい」と回答した児童生徒が大多数となり、目標を達成できた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・これまで直接雇用によるICT支援員を配置していたが、小中学校におけるICT機器やソフトウェア等の種類や数の増加が顕著であり、ICT支援員のスキルアップも不可欠となっているなか、R4とR5にICT支援員の任用ができなかった期間があり、学校支援に影響があったことから、安定的な支援を継続すること、より専門的な情報や知識・技術を得ることを目的に、令和6年度より一部委託へ変更した。その結果、支援機会が確保されたことと、より技術的な支援に取り組んだこと等により成果目標を達成できたと思慮する。</p> <p>・ICT支援員3名による学校訪問(小中13校)を毎日実施したが、学校からはより回数を増やした訪問を希望する声が多かった。</p>	<p>・学校校種ごとの特徴等や学年に応じた支援体制の構築、訪問日以外の支援方法を明確化し、3名体制でのより効果的な運用方法の確立と学校の支援体制強化に努める。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・各学校の情報担当教諭等と連携し、支援体制の強化及びICT研修の充実を図ることで、教育情報化における学校の自走化を目指す。</p> <p>・委託による安定的な支援を継続し、より技術的な支援に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,444	15,444	12,355	3,089	0

```

graph LR
    A[宜野湾市  
(15,444千円)] --> B[委託料  
(15,444千円)]
    B --> C[株式会社学映システム沖縄営業所  
(15,444千円)]
  
```

	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○ 支出先は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当である。</p> <p>○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。</p> <p>○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市
------	------

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	中学生語学研修派遣事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア
担当部課名	指導課	事業実施(予定)年度	平成31年度～令和13年度	国際感覚を身に付ける教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 異文化理解と実践的コミュニケーション能力の向上のために、本市中学生10名を外国語学習研修施設等に語学研修生として6日間程度派遣し、外交関係官公庁等の施設見学により見聞を広めることで、国際的視野を育成する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

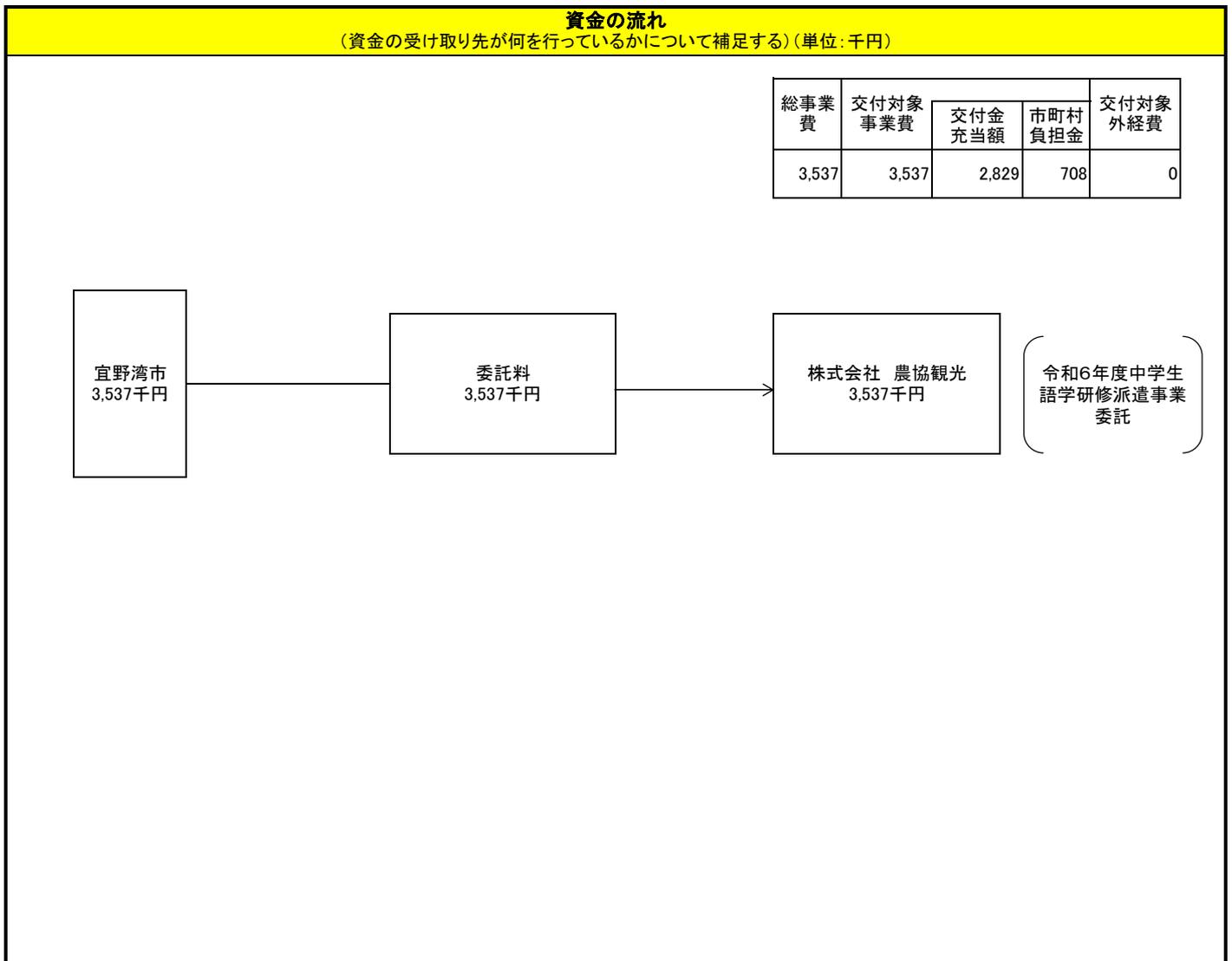
実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	9,480	-	2,780	3,165	3,987
		(b) 予算現額	0	-	2,600	2,802	3,537
		(c) 増減額(b-a)	▲ 9,480	-	▲ 180	▲ 363	▲ 450
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	0	-	2,600	2,802	3,537
		B. 執行済額	0	-	2,600	2,755	3,537
		うち交付金充当額	0	-	2,080	2,204	2,829
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	0.0%	-	100.0%	98.3%	100.0%
		予算の状況の説明	令和2年度、令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大のため事業中止。令和4年度、令和5年度は海外への研修派遣を国内へ変更した。当初予算の減額については、契約執行残による減である。				

活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
		外国語学習研修施設等に派遣する語学研修生の人数	目標 ()	市内の中学生10名	市内の中学生10名	市内の中学生12名
	実績	-	市内の中学生9名	市内の中学生10名	市内の中学生12名	
達成状況説明	・今年度最後の取組であり、12名の生徒が参加し、予定通り外国語学習研修施設でのレッスンと、カナダ大使館等の外交関係官公庁の施設見学を実施できた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)		
			語学研修生による本事業への満足度アンケート: 満足割合 96%以上 【参考】過去の実績(短期海外留学実施の際、満足割合)平成28年度: 98%、平成29年度: 97%、平成30年度: 100%	目標 ()	語学研修に対する満足割合 95%	語学研修に対する満足割合 95%	語学研修に対する満足割合 96%	()
			実績	満足割合結果 93%	満足割合結果 90%	満足割合結果 92%		
進捗状況説明	・語学研修に参加した生徒から92%の満足度を得ることが出来た。昨年度よりも上昇したが、目標の指標(95%)に僅差で及ばなかった。 ・満足度アンケートの結果から、自らの英語力について実感し、課題を見つけたり自信を持ったりすることが出来、英語学習に対する意欲を高めることが出来た。 ・事前学習を通して、連帯感を築くことや研修に対する意識を高めることが出来た。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 英語能力が高い生徒にとっては、当該研修内容が平易に感じるがあったと思われる。 研修施設において、研修生の安心・安全に留意して語学研修ができるよう、信頼のおける旅行業者を選定する必要がある。 新型コロナウイルス感染症収束後における、海外の動向把握と渡航先との調整を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語初級者から上級者まで幅広いレベルの生徒が満足してもらえるように、研修内容を工夫する。 引率教諭、旅行者等を交えて、綿密な計画案の作成と、生徒達への事前の学習会(研修会)を2回ほど実施する。 生徒の語学研修及び官公庁見学がより充実したものとなるよう、事前準備をしっかりと計画を立てて実践する。
	今後の取り組み方針	
<p>・令和6年度まで国内での語学派遣研修を実施し成果を上げて終了したが、令和7年度からは新たに海外での留学機会を与え、ホームステイ等生活体験を通じた異文化理解と英語による実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定方法は、プロポーザル方式により決定したため妥当であった。 ○予算規模については、事業内容に沿った適正な規模であったため、妥当である。 ○費目、用途については、事業目的達成のため必要なものに限定されているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑤	ICT機器活用推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部課名	指導部はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成31～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進		
事業内容	児童生徒の情報活用能力の育成環境を整備するため、小中学校に電子黒板及び書画カメラを整備し、保有する他のICT機器との連携強化を図ることで、より効率的・効果的なICT教育を推進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	(a) 当初予算額	16,474	5,494	201,828		15,884	
	(b) 予算現額	14,737	4,569	183,335		6,169	
	(c) 増減額(b-a)	▲1,737	▲925	▲18,493	0	▲9,715	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	14,737	4,569	183,335	0	6,169	
	B. 執行済額	14,737	4,569	183,336		6,169	
	うち交付金充当額	11,789	3,655	146,668		4,935	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	100.0%	
予算の状況の説明	入札執行残について、3月補正にて補正減し、計画通り事業を執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	指導者用デジタル教科書:国語、社会、数学、理科、英語	目標	(国語、社会、数学、理科、英語)	()	()	()	
		実績	国語、社会、数学、理科、英語				
	市内小学校へICT機器の整備を行う。電子黒板、書画カメラ、機材等送受信装置等	目標	()	()	()	()	
		実績					
	校内ネットワーク基盤再構築及びLAN配線等再整備を行う	目標	()	()	()	()	
		実績					
	電子黒板、書画カメラの整備	目標	()	(電子黒板、書画カメラの整備)	()	(電子黒板の整備)	
		実績		電子黒板 275台 書画カメラ 183台		電子黒板19台	
達成状況説明	小学校に電子黒板1台、中学校に電子黒板18台整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	教員にアンケート調査を実施し、授業に電子黒板を活用して指導できる割合:80%以上	目標	()	(80%以上)	()	(80%以上)	()
		実績		87.4%		87.5%	
	児童生徒にアンケート調査を実施し、電子黒板の活用により、授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	()	(80%以上)	()	(80%以上)	()
		実績		95.6%		小学校:94.4% 中学校:96.0%	
進捗状況説明	(教員)多くの教職員が電子黒板を使った授業を「ほぼ毎日・毎回」又は「2,3日に1回」使用していると回答し、日常的に授業で活用していることが分かった。 (児童生徒)児童生徒においても「電子黒板を使った授業は分かりやすかった」又は「どちらかというと分かりやすい」と回答しており、目標を達成できた。						

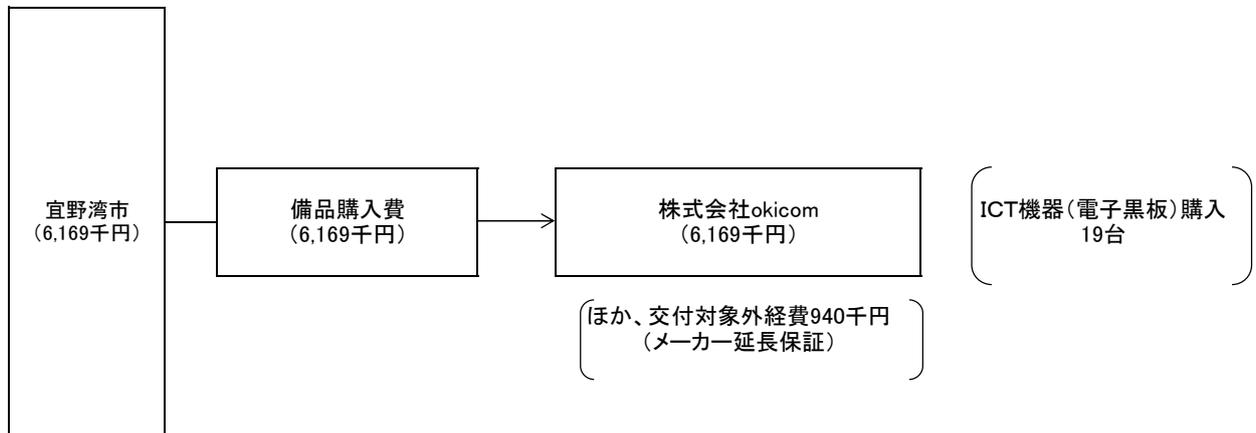
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	アンケート結果からも、教師も児童生徒も授業での電子黒板を含むICT機器の利活用が定着していることが伺える。	教科や単元ごとでより適切な機器やソフトウェア等の選択ができるようICT支援員による支援や授業活用の例示、環境整備(安定した通信ネットワークや故障対応等)について、引き続き対応する。

今後の取り組み方針

電子黒板等のICT機器を活用した優良授業例等を各学校と共有するなどし、日々の授業での積極的活用を推進する。併せて、研修会の実施や機器のメンテナンス、ICT支援員によるサポートを引き続き実施し、授業での活用率、児童生徒の授業理解度の向上に向け取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,109	6,169	4,935	1,234	940



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は指名競争入札で選定しており、妥当である。 ○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5	市民防災事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-イ		
担当部課名	総務部 防災危機管理室	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進		
事業内容	宜野湾市地域防災計画に基づき、災害に強いまちづくりの推進により、災害時の備蓄食糧及び飲料水を確保し、適切な被災者支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,341	35,800	1,676	4,105	14,442
		(b) 予算現額	9,341	35,800	1,676	4,105	14,442
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	9,341	35,800	1,676	4,105	14,442
	B. 執行済額		9,331	35,074	1,035	3,993	11,065
	うち交付金充当額		7,465	28,059	828	799	8,852
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	98.0%	61.8%	97.3%	76.6%
予算の状況の説明		入札執行残があるものの、計画通り業務を遂行した。 交付金充当額については、新規購入分を対象とし、ローリングストックによる更新分は充当対象外とした。 新規購入分額(11,065千円)、更新分額(3,298千円)					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	目標	(食糧5,500食 保存水552L)	(食糧5,500食 保存水552L)	食糧5,500食 保存水 552L 非常用おむつ(子ども用) 1,272枚 " (大人用) 568枚 災害備蓄用生理用品 2,150枚 液体ミルク 360缶 アレルギー対応ミルク 1缶 ほ乳ボトル 50個	備蓄食糧(主食/レトルト・おかゆ) 9,200食 備蓄食糧(副食)5,600食、保存水 1,104本、液体ミルク360缶 アレルギー対応ミルク13缶、経口補水液1,600袋、哺乳ボトル30個 災害備蓄用おむつ(子ども用)852枚 災害備蓄用おむつ(大人用)416枚、 災害備蓄用生理用品1,720枚、毛布700枚、簡易トイレ消耗品350セット 災害備蓄用トイレトペーパー156巻		
実績	食糧5,500食 保存水552L	食糧5,400食 保存水552L	食糧5,500食 保存水 552L 非常用おむつ(子ども用) 1,272枚 " (大人用) 568枚 災害備蓄用生理用品 2,150枚 液体ミルク 360缶 アレルギー対応ミルク 1缶 ほ乳ボトル 50個	備蓄食糧(主食/レトルト・おかゆ) 9,200食 備蓄食糧(副食)5,600食、保存水 1,104本、液体ミルク360缶 アレルギー対応ミルク13缶、経口補水液1,600袋、哺乳ボトル30個 災害備蓄用おむつ(子ども用)768枚 災害備蓄用おむつ(大人用)416枚、 災害備蓄用生理用品1,720枚、毛布700枚、簡易トイレ消耗品350セット 災害備蓄用トイレトペーパー156巻			
達成状況説明	・当初計画どおり、備蓄食糧等を整備することができた。						

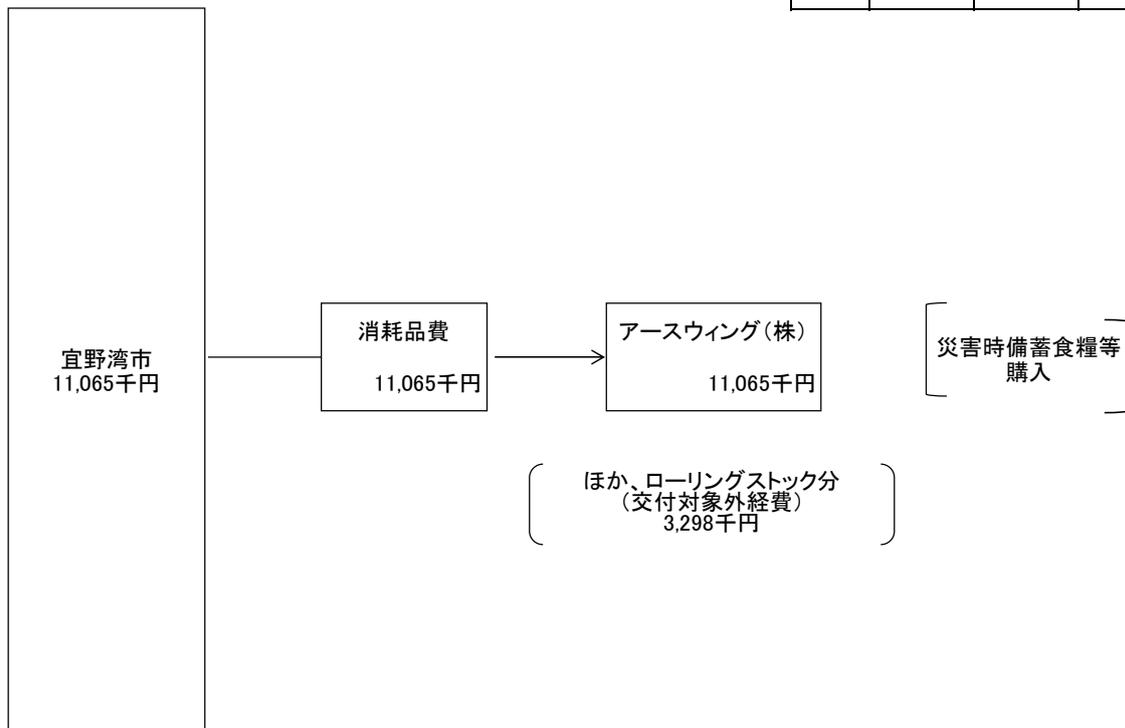
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	保存食及び保存水等の備蓄率 備蓄食糧(主食/レトルト) 51%、備蓄食糧(主食/おかゆ) 8% 備蓄食糧(副食) 22%、保存水 23%、液体ミルク 28% アレルギー対応ミルク 100%、経口補水液 88% 哺乳ボトル 19%、災害備蓄用おむつ(子ども用) 17% 災害備蓄用おむつ(大人用) 18% 災害備蓄用生理用品 18%、毛布 20% 簡易トイレ消耗品 21%、災害備蓄用トイレトイレットペーパー 8%	目標	()	(保存食100% 保存水11%)	備蓄率 備蓄食糧100% 保存水 12% 非常用おむつ(子ども用) 33% 非常用おむつ(大人用) 33% 災害用生理用品 38% 液体ミルク 33% アレルギー対応ミルク 33% ほ乳ボトル100%	備蓄食糧(主食/レトルト) 51% 備蓄食糧(主食/おかゆ) 8% 備蓄食糧(副食) 22% 保存水 23% 液体ミルク 28% アレルギー対応ミルク 100% 経口補水液 88% 哺乳ボトル 19% 災害備蓄用おむつ(子ども用) 17% 災害備蓄用おむつ(大人用) 18% 災害備蓄用生理用品 18% 毛布 20% 簡易トイレ消耗品 21% 災害備蓄用トイレトイレットペーパー 8%
実績			保存食100% 保存水9.99%	保存水9.98% 上記以外の備蓄については、目標値どおり達成	保存水16.2%、 毛布19.9% 上記以外の備蓄については、目標値どおり達成	
宜野湾市防災訓練において訓練参加者に対するアンケートの結果「備蓄の重要性を感じた。」:「80%以上」と設定	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
	実績		99.40%	98.01%	99.40%	
[参考指標] 整備した資機材を活用した防災訓練を年2回以上実施する。	目標	()	(2回)	(2回)	(2回)	()
	実績		2回	5回	6回	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾市備蓄計画に基づき防災備蓄食糧等を購入し、保存水、毛布以外のR6備蓄率目標を達成した。保存水及び毛布については、既存の保管場所では容量が限界のため、新たな保管場所の検討を行う必要がある。 ・防災訓練での備蓄に関するアンケート調査結果は「備蓄の重要性を感じた」との回答が99.40%であり、目標を達成した。 ・資機材を使用した防災訓練(資機材訓練1回、避難訓練2回、避難所運営訓練3回)を実施し目標を達成した。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾市備蓄計画の策定により、備蓄食糧等の備蓄率が減少したため、備蓄計画に則り備蓄食糧等の整備を行う。 ・既存の保管場所では容量限界のため、食糧及び水、生活必需品等の整備ができていない。新たな保管場所の確保の課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾市備蓄計画に沿った、備蓄食糧等の購入計画を実施する。 ・新たな備蓄物資保管場所の検討をする。
今後の取り組み方針		
令和5年3月に宜野湾市備蓄計画の策定により備蓄物資支給対象者が10,916人となったことから、備蓄率が減となったため、備蓄計画に則り備蓄食糧等の整備を行う。 新たな備蓄保管場所について、今後公共施設に備蓄保管場所の確保について調整を行う。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,363	11,065	8,852	2,213	3,298



資金の 用途の流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・物品売買業者は指名競争入札で選定しており妥当であると判断した。 ・予算は3者見積による予定価格を設定しており、妥当であると判断した。 ・費目、用途については計画段階で検査しており、目的に即しており必要なものであると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ	
担当部課名	基地政策部 まち未来課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8	
事業内容	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		18,804	21,281	18,882	18,739	22,042
			16,894	16,999	16,846	17,923	21,936
			▲1,910	▲4,282	▲2,036	▲816	▲106
			0	0	0	0	0
			16,894	16,999	16,846	17,923	21,936
		B. 執行済額	14,490	16,985	16,745	17,922	21,083
		うち交付金充当額	11,592	13,588	13,396	14,337	16,866
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	85.8%	99.9%	99.4%	100.0%	96.1%
	予算の状況の説明	委託契約の残額及び旅費の執行残を予算減額しているが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	市民向けの意向醸成イベント等・地権者向けの意見交換会等の実施		目標 (市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成)	(市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成)	(市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成)	(市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成)	
			実績	実施	実施	実施	
	達成状況説明	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握を行った。また、地権者の家族等によって構成される「普天間飛行場跡地を考える若手の会」の活動を支援し、意向醸成及び合意形成についての取り組みを行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	市民向けの意向醸成イベント等 ①参加者数:230人		目標	() (230人80人)	() (①230人②80人)	() (①230人②80人)	()
	地権者向けの意見交換会等 ②参加者:80人		実績	230人80人	①230人②80人	①230人②80人	
	【参考指標】 跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利用計画に対する市民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上		目標	() (「肯定的な評価」80%以上)	() (「肯定的な評価」80%以上)	() (「肯定的な評価」80%以上)	()
			実績		84%	85%	85%
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 市民向けの意向醸成イベント等・地権者向けの意見交換会等の実施により、市民・地権者の意向把握や参画する機運を高める取組を継続し、跡地利用計画の具体化に向けた関係地権者等の意向醸成を進めているところであり、令和6年度において、関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書を作成した。 まちづくり講座、小学校出前講座、パネル展において、アンケート調査を行い、「肯定的な評価(とても評価する・やや評価する)」は85%となった。 					

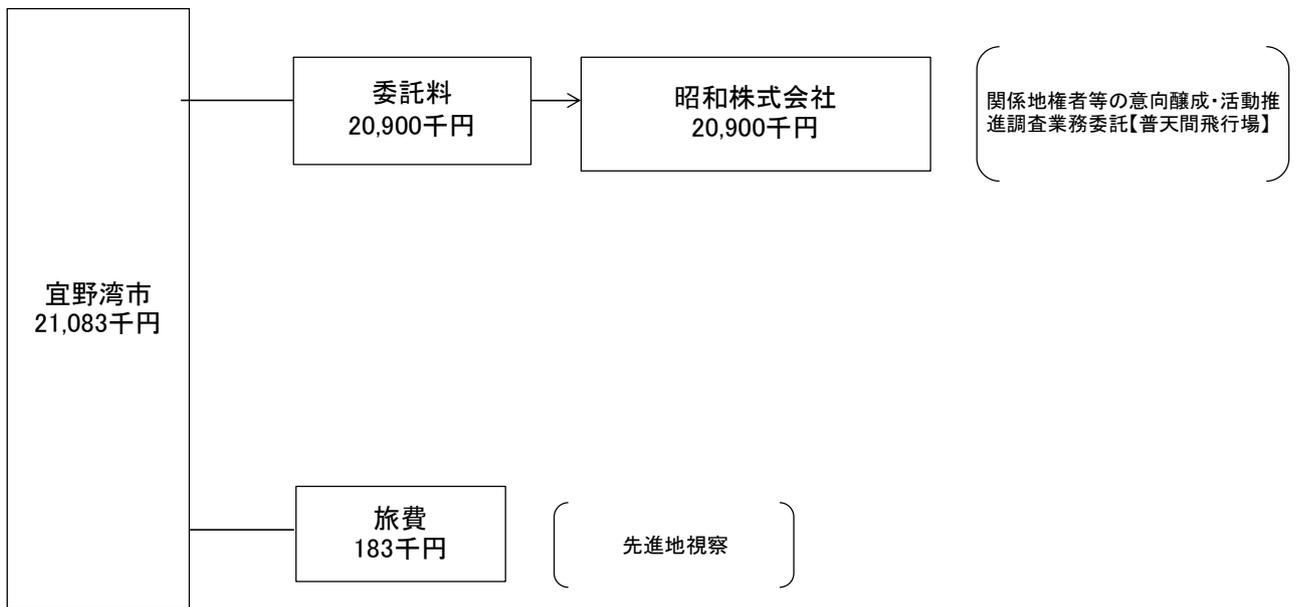
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の返還時期は統合計画では示されているが、明確な返還期日が示されていないため長期的な取り組みが必要になるが、若手の会等において、返還時期の不確実さや周知活動の弱さ等から定例会への参加者減少や固定化が進んでおり、この先、会が自立していくための支援や組織強化が必要であるとともに、市民に対する返還後のまちづくりに対する興味喚起・気運醸成のため、市民向けの情報発信・意見収集の強化が必要である。 ・地権者の相続や金融商品としての土地の小口化により、地権者数が約4200名まで増加している中、地権者が返還後の土地活用等についてどのように考えているのか調査が必要である。 ・今後、跡地利用計画の策定が予定され、より具体的な検討が進められていく中で、今まで以上に多くの地権者・市民等の合意形成を図っていくという、「合意形成のすそ野を広げていく」ための取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌や地権者意見交換会等の情報発信の場を通して活動周知を行い、組織体制の見直しも検討できるよう支援する。また、市内各種組織・団体等へ跡地利用計画策定に向けた検討に対する情報発信・意見収集を行い、市民への跡地利用検討に対する興味喚起を図る。 ・多くの地権者が興味を持つテーマを設定・検証し、地権者意見交換会や情報誌で周知を図り、地権者の跡地利用への興味関心を高める。 ・市内各校の児童生徒に対し、跡地利用計画等の情報発信に係る取組みを行い、児童生徒の家族を含め、市民全体の意向醸成を図る。

今後の取り組み方針

・地権者・市民などに対しては情報提供や意見交換を行い、意向醸成業務の取組み内容や跡地利用計画策定に向けた検討内容について周知を図る。
 ・市内小中学校を対象に将来を担う子供たちに普天間飛行場跡地利用についての意向醸成を図るため、過年度に作成したプロモーションビデオを活用し市内各校の児童生徒へ向けて、普天間飛行場の跡地利用計画についての取組状況を情報発信し、気運醸成を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
21,083	21,083	16,866	4,217	0



資金の用途の流れ、点検、評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札方式により適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(共同調査)		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ		
担当課名	基地政策部 まち未来課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進	
事業内容	返還後における迅速なまちづくりを推進するため、跡地利用の骨格に係る分野別計画の検討及び市民・県民・地権者との合意形成、情報発信等を実施し、普天間飛行場の跡地利用計画へ反映する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,153	14,262	10,072	10,287	17,514
		(b) 予算現額	14,623	12,972	9,709	9,566	17,514
		(c) 増減額(b-a)	▲530	▲1,290	▲363	▲721	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	14,623	12,972	9,709	9,566	17,514
	B. 執行済額		13,711	12,958	9,697	9,148	17,142
	うち交付金充当額		10,969	10,366	7,757	7,318	13,713
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		93.8%	99.9%	99.9%	95.6%	97.9%
予算の状況の説明		委託契約の残額を予算減額しているが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	目標	「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」の「計画内容の具体化」段階等における「行程計画」の更新及び実行	「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」の作成に向けた検討	「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」の作成	跡地利用の実現に向けた取組の具体化	「計画内容の具体化」段階等における「行程計画」の更新及び実行	
実績		「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」(委員会案)を作成した。	「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」を作成した。	行程計画を更新し、目標を定め重点的に取り組む項目に関する検討を行った。	行程計画を更新し、目標を定め重点的に取り組む項目に関する検討を行った。		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行程計画の更新及び同行程計画における「目標を定め重点的に取り組む事項」について計画検討の深化に向けた取組を進めた。 ・計画内容の具体化に向けた継続的な取組を基に「合意形成の促進及び県内外に向けた情報発信」を実施し、普天間飛行場跡地利用の気運醸成を図った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	「跡地利用の実現に向けた取組の具体化」の作成に向けた検討調査を行い調査内容報告書の作成			「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」の作成	行程計画の更新及び計画検討の深化に向けた取組	行程計画の更新及び計画検討の深化に向けた取組	
	【参考指標】跡地利用計画策定後、当該跡地利用計画に対する市民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上			「肯定的な評価」80%以上	「肯定的な評価」80%以上	「肯定的な評価」80%以上	
	進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾市と沖縄県が令和4年度に策定した「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」及び「行程計画の見直し検討」を基に、計画内容の具体化を図るとともに市民・県民・地権者等に対して情報発信等を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させるための取り組みを進めている。 ・成果目標については、普天間飛行場跡地利用推進会議を開催し、行程計画の更新や合意形成の促進及び県内外に向けた情報発信等に関する報告を行った。市民・地権者への情報発信等の取り組みを進めているところであり、令和6年度においても普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書を作成した。 ・跡地利用パネル展において、アンケート調査を行い、「肯定的な評価(とても評価する・やや評価する)」は80%となった。 				
				84%	80%	80%	

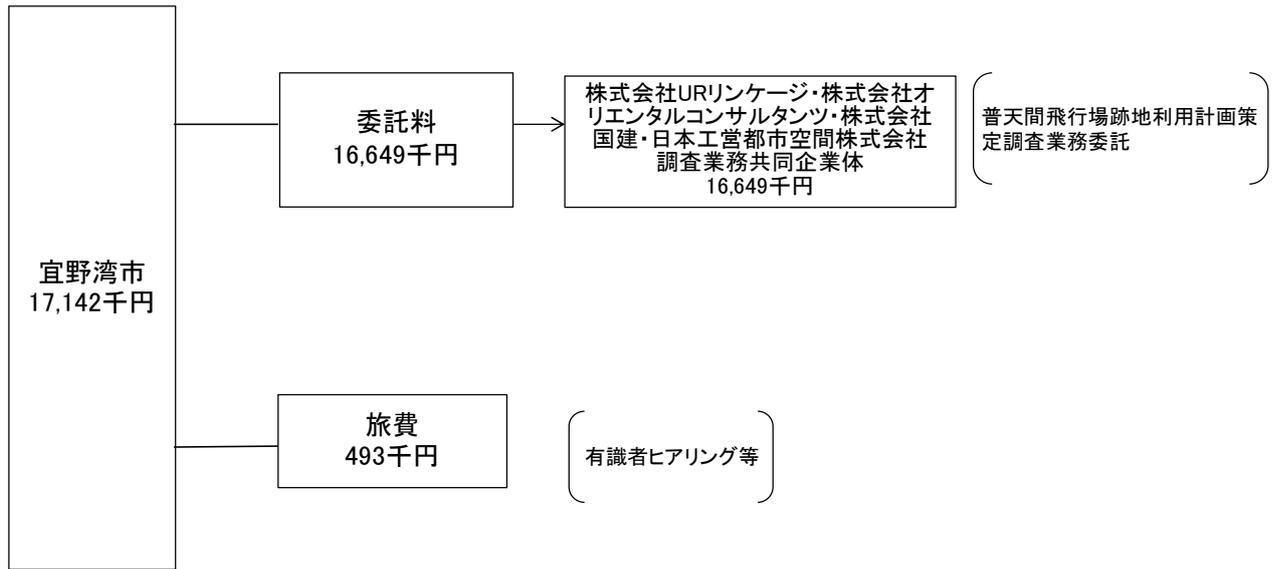
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の返還時期は統合計画の上では示されているが、まだ不確定であることや、基地内の立ち入りが認められず、調査が十分に実施できないことから、跡地利用計画の策定に影響が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基地内の立ち入り調査等を早期に実現するため、関係省庁や米軍と調整、協議をすすめていく。

今後の取り組み方針

・基地内の立ち入り調査等の早期実現に向けて関係省庁や米軍と調整、協議を進めていく。
 ・令和4年度に作成した「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を基に、計画内容の具体化に向けた継続的な取組みを進めていく。
 ・令和4年度調査で更新した「バーチャル普天間未来シティ」等の情報発信ツールを活用し、県内外へ広く情報を発信するとともに、イベント等の様々な取組みを通じて、跡地利用計画策定に向けて、各世代、各分野等の多くの方々から意見聴取を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
17,142	17,142	13,713	3,429	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、プロポーザル方式により適切に選定した。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

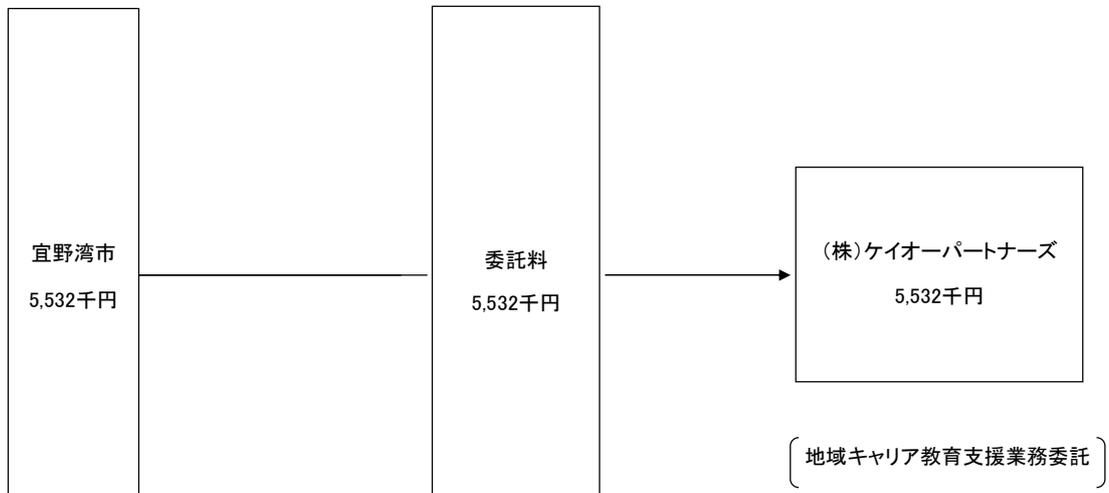
市町村名	宜野湾市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7	地域キャリア教育支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-(ウ)	
担当部課名	市民経済部 産業政策課	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の活躍促進		
事業内容	地域の企業、学校、保護者等が連携した宜野湾市みらいづくり連携協議会を開催し、子どもたちが抱える課題の共有、解決策の検討をし、小中学生を対象にしたキャリア教育プログラムを実施することで、児童生徒の就業意識の向上及び若年者の失業率の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,269	5,269	5,532	5,532	5,532
			5,269	5,269	5,532	5,532	5,532
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			5,269	5,269	5,532	5,532	5,532
	B. 執行済額		5,269	5,269	5,532	5,532	5,532
	うち交付金充当額		4,215	4,215	4,425	4,425	4,425
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行により、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	宜野湾市みらいづくり連携協議会の開催		目標 (2回)	(2回)	(2回)	(2回)	
			実績 2回	2回	2回	2回	
	①市内小中学校全校での職業体験プログラムの実施 ②中学生の職場体験事業所の開拓 ③高校との連携模索、保護者向けキャリア教育講演会の拡大		目標 (①13校)	(①13校)	(①13校)	(①13校)	
		実績 ①6校:1547名 ②未実施 ③未実施	①5校:1347名 ②5事業者 ③未実施	①10校:2540名 ②2事業者 ③1回実施	①11校:2715名 ②2事業者 ③4回実施		
達成状況説明		・みらいづくり連携協議会の開催については、2回開催することができた。 ①市内小中学校でのキャリア教育プログラムの実施については11校で行うことができた。 ②市内事業者インタビュー時に職場体験受入可否についてのアンケートを行った。2事業所追加となった。 ③志真志小学校、嘉数小学校、宜野湾小学校にて保護者向けキャリア教育講話を実施した。また、普天間第二小学校にて保護者・教員向けキャリア教育講話を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	就業意識の肯定的変化(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方について検証を行う。		目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績	小学校:95.7% 中学校:98.5%	小学校:97.4% 中学校:96.5%	小学校:98.1% 中学校:97.3%	
	進捗状況説明		アンケート項目のうち「今回の授業を受けて、将来働きたいと思いますか。」に対して、「働きたいと思っている」、「少しは働きたいと思っている」で確認した。結果、小学校は98.1%、中学校は97.3%となり、一定の成果を挙げることができた。				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 学校への事前ヒアリングを通して、子どもたちの様子や身に付けさせたい力、働くことへのイメージ等を聞き取り、成長段階に応じたプログラムとなるよう工夫していることが、子どもたちの就業意識の向上に一定の成果を挙げることができたと考える。(例:中学校へ進学する6年生へ進路を意識する機会を作るためのキャリア教育講話の実施、中学校では職場体験前に社会人として必要なマナーを学ぶためのマナー講座の実施等) みらいづくり連携協議会にて、キャリア教育プログラムを継続した取組みにしていく必要があるとの指摘があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校において、キャリア教育プログラムを継続する必要性について周知していく。 小中学校の行事の遂行状況を考慮、聞取りをしながら日程調整等を進め、全校でのプログラム開催に努める。 GIGAスクール構想によるICT活用を考慮して立ち上げたHPの活用方法を検討する。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 引続き中学校の職場体験受入事業所について、教育界と産業界を繋ぎ開拓支援をしていく。 市の広報誌やSNSへの記事掲載やみらいづくり連携協議会ブログ等で本事業の取組みを発信し、市内事業者へ周知を図る。 対面によるキャリア教育プログラムを主体とし、状況に応じてHPを活用した授業等の取組みができるよう提案していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,532	5,532	4,425	1,107	



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 受託業者選定は昨年度の連携協議会構成団体及び学校側と構築した信頼関係により安定した事務運営と、学校、児童生徒のアンケート等で得られた結果を反映し活かせるよう継続性を重視し随意契約により選定した。 人件費及び賃借料、その他諸経費は適正な規模で、実績に応じて清算を行った。 費目、用途については、毎月の報告を精査し、目的に即した経費であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	市民会館機能強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ		
担当部課名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成30～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり		
事業内容	文化活動の拠点として、市民の舞台発表や芸術鑑賞の場として活用されているが、建設から39年経過し、施設の老朽化が進んでいる。普天間飛行場移設及び跡地利用に至るまでに長期間を要することが想定されるため、機能強化とバリアフリー化を図りながら、安全・快適で利用しやすい環境を整え、市民が質の高い文化芸術に触れる機会や文化活動を行う場の確保を図るため、宜野湾市民会館の整備を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和7年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	386,162	16,194	372,862		446,929
		(b)予算現額	364,443	14,850	351,633		431,703
		(c)増減額(b-a)	▲21,719	▲1,344	▲21,229	0	▲15,226
		(d)繰越額				115,128	
		A.計(b+d)	364,443	14,850	351,633	115,128	431,703
		B.執行済額	364,443	14,850	240,219	115,128	431,702
		うち交付金充当額	263,007	11,880	188,439	92,102	335,241
		次年度繰越額			115,128		
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	68.3%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	契約執行残及び事業費の精査により交付対象外経費が生じたことから、工事費を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	施設工事監理委託	目標	(完了)	(完了)	(完了)	(完了)	
		実績	完了	完了	完了	完了	
	施設工事(機械設備・電気設備)	目標	(完了)	(完了)	(完了)	(完了)	
		実績	完了	完了	完了	完了	
達成状況説明	施設工事が令和7年2月に完了						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R7年度)
	【改修工事完了】 改修工事監理業務委託 改修工事(機械設備・電気設備)	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()
		実績		完了	完了	完了	
	市民会館開館	目標	()	()	()	(開館)	()
		実績				開館	
	【R7成果目標】 年間利用者数:24,619人 年間公演回数:34回	目標	()	()	()	()	24,619人 34回
実績							
進捗状況説明	施設工事が令和7年2月に完了						

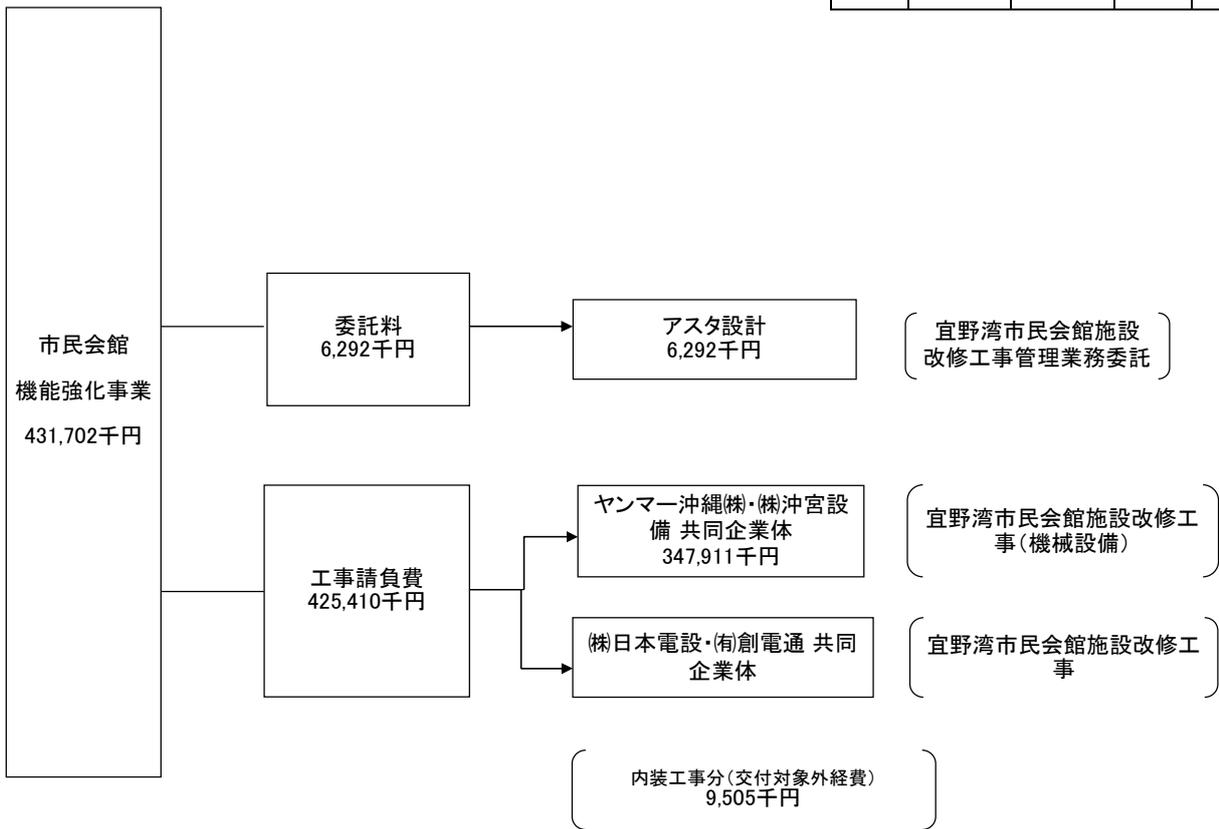
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	工事範囲のすぐ近くに職員がいることによる施行者側への安全管理で苦慮した。	協力会社との連携並びに工事工程の見直しをすることにより、工期短縮に向けた調整を行い、予定通りに工事を完了させることができた。

今後の取り組み方針

今後30年間長期的安定的な施設の運用ができるよう平成27年に策定した保全計画に基づき整備を行っているが、整備後は文化の拠点としてこれまで以上に利用しやすい施設として認識してもらえるよう周知を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
441,207	431,702	335,241	96,461	9,505



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目、使途については完了報告時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	